

衛生公衆衛生学		歯科衛生学科		2年前期		
		2単位		講義	30時間	
[教員]： 亀山 洋一郎・大月 佳代子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯科の臨床的な知識ばかりでなく、全身の健康、予防、疫学、人口、環境、感染症、食品、地域保健、母子保健、学校保健、成人・老人保健、産業保健、精神保健、国際保健についての知識を学ぶ。これらは大変に広範囲ですが、医療人として常識的に理解する必要がある。この得られた知識を活用して歯科衛生士としての業務遂行にさらなるレベルアップを目指す事を目的とする。					
授業方法	厚生労働省等から発表される統計表・図・グラフを活用しながら下記項目（Ⅰ-1章～6章、Ⅲ-1章～7章）に関して理解を深める。					
到達目標	1. [知識・理解] 医療人としての基礎的な地球環境知識を持つと同時に健康増進につなげることが出来る。(◎) 2. [関心・意欲・態度] 自己の体調管理に留意し、授業を主体的に受講できる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	90	-	-	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	90	-	-	10	100
成績評価と割合	定期試験90% 受講態度10% 合計100%で評価します。 欠席は減点とし、授業実施時間の1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学』医歯薬出版					
参考書・教材	必要な資料は、配布します。資料枚数が多いのできちんとファイリングする用意をしておいてください。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	Ⅰ-1章 総論：健康の概念、予防医学の概念 [準備・課題] 予防法の適用について復習する。(2h) Ⅰ-2章 疫学：疫学の定義、概要、方法 [準備・課題] 疫学の定義を説明し、疫学の方法について復習する。(2h)					
2	Ⅰ-3章 人口：人口の動向（人口静態）、動態、生命表 [準備・課題] 人口の動向、人口動態統計、生命表について復習する。(6h)					
3	Ⅰ-4章 健康と環境：環境の概念、空気、水、地球環境の変化 [準備・課題] 健康と環境、地球環境の変化について復習する。(4h)					
4	Ⅰ-4章 健康と環境：産業廃棄物 [準備・課題] 廃棄物処理について学ぶ。(2h) Ⅰ-6章 食品と健康：食品保健、栄養 [準備・課題] 食品と健康について復習する。(2h)					
5	Ⅲ-1章 地域保健：地域社会と公衆衛生の概念 [準備・課題] 組織、関係法規の理解を深める。(2h) Ⅲ-4章 成人保健：成人保健と関係法規 [準備・課題] 成人保健の概念、組織と関係法規の理解を深める。(2h)					
6	Ⅲ-5章 産業保健：産業保健の概念 [準備・課題] 職業性疾患を理解する。(2h) Ⅲ-6章 老人（高齢者）保健：老人保健と関係法規 [準備・課題] 老年人口の増加との関連を理解する。(2h)					
7	Ⅰ-5章 感染症：感染症の概念、成り立ち、予防、動向 [準備・課題] 感染症の成り立ち、予防について復習する。(2h)					
8	Ⅲ-7章 精神保健：精神保健の医療、福祉 [準備・課題] 全体の復習。(2h)					
時間外での学習	新聞等で上記項目に関連する記事に関心をもって読んでください。					
受講学生へのメッセージ	授業内容が大変広範囲で多岐にわたり、とらえどころの選択が難しいと感じると思いますが、要点は授業で指摘します。 オフィスアワーは、授業終了後行います。					

保健情報統計学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：石川 隆義						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	口腔疾患の疫学的方法について理解し、口腔領域の統計に関する知識を深めることを目標としている。具体的には、う蝕・歯周疾患・口腔清掃状態の疫学的特性と問題点、数量化の仕方、計算方法を修得できることを目指す。また実際の統計処理の段階では適宜、演習問題を併用し、講義と演習のドッキングにより実践面に役立つ衛生統計学の知識の修得を行う授業内容とする。					
授業方法	統計処理の基礎編から応用へと段階的に進めて行く授業方法とするため、各回の授業内容を確実に理解することが大切である。					
到達目標	1. [知識・理解] 保健情報統計の意味とその目標及び手順について説明ができる。(◎) 2. [知識・理解] 齶蝕や歯周疾患の指数の意味を述べ、実際の算出データの評価について説明ができる。(◎) 3. [知識・理解] 集団の特性を明確にするため、ばらつき(散布度)をいかに数値的に表現するかを説明ができる。(◎) 4. [知識・理解] 標本平均からの母平均の推定と標本平均の差の検定について説明ができる。(◎) 5. [知識・理解] 2つの事象の関連性を相関係数によって算出した後、その数値の有意性について説明ができる。(◎) 6. [関心・意欲・態度] 歯科医療における問題点を、自ら統計学的に解決することができる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計	80	-	-	20	100
成績評価と割合	筆記試験(定期試験時)80%、受講態度(レポート、履修カルテ)20%で評価する。全授業の1/3以上の欠席者には受験資格無し。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学』医歯薬出版					
参考書・教材	石居進/著『生物統計学入門—具体例による解説と演習』培風館					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	保健情報と保健統計：保健情報の種類と国家統計調査について述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、特にデータと情報の違いについてまとめる。(1h)					
2	保健情報と疫学：健康障害の発生要因と疫学的方法論について解説する。 [準備・課題]学修内容を復習し、疫学の定義、目的、病因論、方法論についてまとめる。(1h)					
3	歯科疾患の指数(1)齶蝕について：齶蝕の指数について解説する。 [準備・課題]齶蝕に関する演習問題を解き、発表をする。(1h)					
4	歯科疾患の指数(2)歯周疾患について：歯周疾患の指数について解説する。 [準備・課題]歯周疾患に関する演習問題を解き、発表をする。(1h)					
5	歯科疾患の指数(3)口腔清掃状態について：口腔清掃状態の指数について解説する。 [準備・課題]口腔清掃状態に関する演習問題を解き、発表をする。(1h)					
6	歯科疾患の指数(4)不正咬合について：不正咬合と歯列不正の指数と歯のフッ素症指数等について解説する。 [準備・課題]学修内容を復習し、不正咬合と歯列不正の指数と歯のフッ素症指数についてまとめる。(1h)					
7	保健情報の収集：インターネットによる情報収集について [準備・課題]パソコンを使用して実際に演習を行い、レポートにまとめる。(1h)					
8	調査手順：質問紙作成法の手順と標本抽出について解説する。 [準備・課題]アンケート作成の手順と注意点についてまとめる。(1h)					
9	保健統計の方法(1)：データの特性と記述統計について解説する。 [準備・課題]学修内容を復習し、代表値、散布度、相関についてまとめる。(1h)					
10	保健統計の方法(2)：推定と検定および多変量解析について解説する。 [準備・課題]学習内容を復習し、数値の特徴や分布に応じた検定についてまとめる。(1h)					
11	保健情報の分析演習(1)：解析と検定の演習を行う。 [準備・課題]t検定についての手順についてまとめ、 $\chi^2$ 検定について演習問題の復習をする。(1h)					
12	保健統計の分析演習(2)：図表の種類と特徴について学ぶ。 [準備・課題]データの表現を行う際の図表の種類を選択についてまとめる。(1h)					
13	保健統計の分析演習(3)：図表の作り方について学ぶ。 [準備・課題]統計図表の作成手順の基本事項についてまとめる。(1h)					
14	情報の保護と倫理(1)：情報社会の特性と問題点について解説する。 [準備・課題]学修内容を復習し、インターネットの利点と問題点についてまとめる。(1h)					
15	情報の保護と倫理(2)：情報の開示と保護の問題点および情報モラルについて解説する。 [準備・課題]学修内容を復習し、医療機関での個人情報の取扱いについてまとめる。(1h)					
時間外での学習	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室まで問題点を整理して聞きにきてください。					
受講学生へのメッセージ	テキストにそって演習問題を解きながら基本統計量の算出や検定方法を学ぶ。従って、基本的な計算ができるよう特に予習をして準備しておく事。オフィスアワーは、毎週木曜日の5時限目の16：20から17：50です。					

衛生行政社会福祉学		歯科衛生学科		2年後期		
		2単位		講義	30時間	
[教員]：北嶋 勉						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯科衛生士は歯科衛生士法に基づく歯科医師の指導のもと一定の予防処置を行う他、歯科診療の補助を行う、業務の独占がなされる国家資格たる専門職(歯科医療職)である。その成り立ちや取り巻く関係法(歯科医療等)との関連並びに今日的課題である地域医療(歯科医療)との関連から今後の歯科衛生士の役割を学ぶ必要がある。その為には歯科衛生の枠内にとどまることなく、広く社会の成り立ちやそれを支える社会福祉・社会保障との関連から理解することが益々求められる。クライアントや地域社会に関わる中で本授業が専門職としての歯科衛生士の人間性やコミュニケーションの豊かさの重要性等を学ぶ。					
授業方法	テキスト及び要約並びに関連時事問題(新聞その他)等都度資料提供し講義を行う。 適宜数人の小グループによる演習も取り入れる。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>[知識・理解] 歯科衛生士法と関係法令との関わり、位置づけ等理解する。(◎)</li> <li>[思考・判断・表現] 広く社会の成り立ちと社会福祉・社会保障との関連から衛生行政としての歯科衛生士が果たす役割を考えることが出来る。今日地域医療(歯科医療)が地域包括システムの中で大きな期待がなされ、社会福祉・社会保障との関連から思考・判断・表現することが出来る。(◎)</li> <li>[技能] 社会福祉は人間理解でもある。しかし人間は理解しづらい存在でもある。理解しづらい人間をどこまでも理解しようとする姿勢がコミュニケーション能力を上げる。又各種統計の分析的確に文章化等することは説得力の向上に通じる。(△)</li> <li>[関心・意欲・態度] テキストのみならずニュース・新聞等時事社会問題は社会福祉・社会保障との関連に深いものがある。このように社会・地域の出来事に関心を持ち、その意欲・態度が専門職をさらに深みのあるものに作り上げられる観点から、適宜課題レポート等により力を付けたい。(○)</li> </ol>					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	30	20	-	-	50
	課題レポート・表現(記述)	-	10	10	10	30
	自己評価	-	5	-	5	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	30	35	10	25	100
成績評価と割合	<ol style="list-style-type: none"> <li>筆記試験 50%：基本的な知識や記述による思考等を評価する。</li> <li>課題レポート 30%：随時課題設定のレポート提出を求める。</li> <li>自己評価 10%：7回を一区切りとし区切り毎の自己評価(学習度)チェック表(当方で作成)により理解できたところ、不足しているところを自覚する。このことにより判断・意欲等それぞれ5点とし、総合的な力をレベルアップする。</li> <li>受講態度 10%：雑談・私語は禁止、当該点の範囲で減点。積極的な質問等は当該点の範囲で加点。 *欠席は受講態度の点数を参考に減点する。最終日までに3分の1の欠席がある場合は、筆記試験資格はない。(単位取得不可)</li> </ol>					
テキスト	『歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 第8版』医歯薬出版(売店で購入してください) 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 歯科衛生士と法律・制度 第2版』医歯薬出版を合わせて活用する。					
参考書・教材	時事問題等当方で準備する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	社会保障制度について学ぶ(1) ①社会保障全般について学ぶ ②社会保障の歴史について学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
2	社会保障制度について学ぶ(2) ①ライフステージに応じた社会保障制度について学ぶ ②世界の主な国による社会保障制度を学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
3	衛生行政について学ぶ 衛生行政の目的(日本国憲法との関連)、役割、沿革、仕組みについて学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
4	衛生関係法について学ぶ(1) ①衛生関係法体系を学ぶ ②医師法・歯科医師法を学ぶ ③歯科衛生士法その1を学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
5	衛生関係法について学ぶ(2) ①歯科衛生士法その2を学ぶ ②関連する医療関係者に関する法を学ぶ ③医療法について学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
6	衛生関係法について学ぶ(3) ①薬事に関する法を学ぶ ②地域保健に関する法を学ぶ ③食品安全・食育に関する法を学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
7	保健医療の動向について学ぶ(1) ①国が公表する各種統計資料を読み取る ②①の結果考えられることを発表・記述する [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
8	保健医療の動向について学ぶ(2) ①医療施設、医療従事者の動向について学ぶ ②地域格差について考える [準備・課題]事前にテキストに目をとっておく。②について根拠により自身の考えをまとめる。(5h)					
9	保健医療の動向について学ぶ(3) ①国民医療費の動向を各種統計資料により読み取る。 ②①により今後の傾向を根拠により予測する [準備・課題]事前にテキストに目をとっておく。②について根拠により推測し記述する。(5h)					
10	社会保険について学ぶ(1) ①社会保険の沿革・行政組織を学ぶ ②医療保険と年金制度について学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
11	社会保険について学ぶ(2) ①雇用保険制度等について学ぶ ②介護保険制度について学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
12	社会福祉について学ぶ(1) ①社会福祉と社会保障について学ぶ ②社会福祉の沿革について学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					
13	社会福祉について学ぶ(2) ①行政組織・担い手について学ぶ ②生活保護法等主たる福祉関係法について学ぶ [準備]事前にテキストに目をとっておく。(4h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
14	保健医療の実務について学ぶ ①診療報酬の仕組みについて学ぶ ②保健医療機関での実務について学ぶ [準備]事前にテキストに目をとおしておく。(4h)
15	全体的まとめ ①国試過去問から本授業に関連する問題に実際にあたりつつ全体的なまとめを自身で行う *定期試験では、①を踏まえ選択方式及び記述式による筆記試験を行う。
時間外での学習	事前にテキストに目をとおしておくこと。制度は全ての条項を理解し記憶することは極めて困難でありそのことを目的としない。しかし制度の成り立ち・目的・理念・原理等についてはしっかり理解する必要がある。日ごろから新聞やニュース等で社会福祉・社会保障又生活関連記事に意識し根拠により批評・批判することは大切と考える。
受講学生へのメッセージ	歯科衛生士という国家資格専門職が何故社会福祉・社会保障等を学ぶ必要があるのか。歯科衛生士に求められる技術を提供するだけでなくそこには先ずクライアントという他者がいる。社会福祉は人間理解をとおり適切なサービスを提供する上での技術やその向上を基本とし健康・生きがい・楽しさ・喜びを作り上げる「複合的支援体制」でもある。人間としての品格を高め、探求心の向上を期待します。 オフィスアワー：講義終了後教室にて

保存修復学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：岩田 千鶴子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	臨床歯科医学の一分科である歯科保存学は、保存修復学、歯内療法学、歯周治療学に三分される。その内の保存修復学では、齶蝕などの硬組織疾患によって生じた欠損部の修復法やその材料について学ぶ学問である。最近では、硬組織疾患の発症と進行を防ぎ、また、患者・患歯管理による治療体系のもとで、患者の健康を維持向上させることも重要な課題と考えられるようになってきている。そのため、将来を担う歯科衛生士として専門的知識を習得できるように構成する。					
授業方法	講義を中心とした授業展開を基本とします。パワーポイントおよびプリントを用いた講義を基本とし、実際の保存修復治療に用いる切削具や器材、修復材料等を回覧することで理解を深める授業方法をとる。					
到達目標	1. [知識・理解] 種々の歯科疾患における成り立ちと症状、治療内容、処置の概要に関する課題について、基本的な知識を理解できる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 歯科疾患の症状や治療に対する患者の心理とその対応、また、在宅療養について人間の生活に結びつけながら理解し、課題の解決を考えることができる。(△) 3. [関心・意欲・態度] 疾患、発症要因・進行、修復方法、使用器材など保存修復治療に関する現状をまとめ、説明できる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 医の倫理をわきまえての診療や診療の補助にあたる必要性に関心を持ち、積極的に学修に取り組むことができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	80	-	-	-	80
	レポート	-	10	-	-	10
	出席状況	-	-	-	10	10
	合計	80	10	-	10	100
成績評価と割合	筆記試験 80%、レポート(毎回) 10%、出席状況 10% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患、保存修復・歯内療法』医歯薬出版					
参考書・教材	必要な資料は、適宜配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯の保存療法の種類について考える(歯の保存療法と歯科保存学、対象疾患など) [準備・課題] 歯を健康な状態で保存するための歯科保存学における役割について復習し、まとめる。(4h)					
2	口腔検査(歯・歯周組織)について考える(口腔検査の基礎知識と前準備、医療面接、現症の検査など) [準備・課題] 口腔検査データの分析、分析結果を患者と共有する大切さについて復習し、まとめる。(3~4h)					
3	保存修復の概要について考える(歯の硬組織疾患の種類と病態、齶蝕の病態など) [準備・課題] 保存修復学で扱う疾患について復習し、まとめる。(3~4h)					
4	窩洞と保存修復治療について考える(窩洞の構成・分類、窩洞の条件など) [準備・課題] 「窩洞とは」について復習し、まとめる。(3h)					
5	保存修復治療の概要について考える(診療のステップ、保存修復治療の各ステップと歯科衛生士の役割など) [準備・課題] 保存修復治療の各ステップと歯科衛生士の役割について復習し、まとめる。(3~4h)					
6	保存修復治療の準備について考える(歯科保健指導、局所麻酔、歯間分離、歯肉排除、歯の切削、窩洞形成など) [準備・課題] 保存修復治療術前の口腔清掃の意義についてまとめる。(3~4h)					
7	歯髄保護(覆髄、裏層、IPC法)と保存修復法について考える。 [準備・課題] 保存修復治療における歯髄保護の種類について復習し、まとめる。(3~4h)					
8	直接法修復について考える(1)(コンポジットレジン組成・種類、歯質接着の基礎、器材など) [準備・課題] コンポジットレジンについて復習し、まとめる。(3~4h)					
9	直接法修復について考える(2)(光重合型コンポジットレジン修復の特徴と修復の手順など) [準備・課題] 光重合型コンポジットレジン修復について復習し、まとめる。(3~)					
10	直接法修復について考える(3)(歯科用セメントの種類と用途、ガラスイオノマーセメント修復など) [準備・課題] ガラスイオノマーセメント修復について復習し、まとめる。(3h)					
11	間接法修復について考える(1)(インレーの分類・適応症、メタルインレー修復の特徴・手順など) [準備・課題] メタルインレー修復について復習し、まとめる。(3~4h)					
12	間接法修復について考える(2)(セラミックインレー修復、コンポジットレジンインレー修復など) [準備・課題] セラミックおよびコンポジットレジンインレー修復について復習し、まとめる。(3~4h)					
13	間接法修復について考える(3)(ベニア修復の適応症と禁忌症、手順など) [準備・課題] ベニア修復について復習し、まとめる。(3~4h)					
14	間接法修復について考える(4)(合着材および接着剤など) [準備・課題] 合着材・接着剤について復習し、まとめる。(3h)					
15	保存修復における歯科衛生士の役割について考える。 [準備・課題] 各保存修復治療における手順・使用器材・留意点等を復習し、まとめる。(3~5h)					
時間外での学習	講義で配布されるプリントやテキスト等で復習し理解を深め、[準備・課題]として示した内容を確実に学修しましょう。理解できないことや疑問があれば研究室を訪ねてください。					
受講学生へのメッセージ	保存修復治療は、歯科臨床において最も頻度が高い治療です。後期から臨床実習に臨むに当たり、窩洞とはどのようなものか、それぞれの修復治療の流れ等を十分に習得する必要があります。オフィスアワーは研究室(G206:G号館2F)で毎週木曜日の16:20~17:30です。疑問な点があれば、質問して解決するよう望みます。					

歯内療法学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：岩田 千鶴子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	臨床歯科医学の一分科である歯科保存学に含まれる歯内療法学とは、う蝕、外傷などの硬組織疾患、それに続発して起こる歯髄疾患および根尖歯周組織の疾患に対する予防、治療について学ぶ学問である。保存修復とともに歯内療法も、検査、診断、材料、治療薬、術式に大きな変革と進歩がみられる。これらの治療はほとんどの歯科衛生士が携わることから、治療の概念および歯科衛生士としての使命の理解をねらいとして学び、専門知識の習得を目指す。					
授業方法	パワーポイントを用いた講義を基本とし、実際の歯内治療に用いる切削具や器材、修復材料等を回覧することで理解を深める授業方法をとる。					
到達目標	1. [知識・理解] 根管治療の概念、目的や術式、使用する器材・薬剤、外科的歯内療法の種類と概要・適応症・術式を理解し、課題解決に結びつけ判断することができる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 歯内疾患の原因、歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類・症状・処置を理解し、課題解決に結びつけ判断することができる。(△) 3. [関心・意欲・態度] 歯髄の保存療法・歯髄除去療法の種類、その概略、処置の術式・使用器材に関心を持って学修に取り組むことができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験(まとめテスト)	80	-	-	-	80
	レポート	-	10	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	80	10	-	10	100
成績評価と割合	筆記試験(まとめテスト) 80%、レポート(毎回) 10%、受講態度 10% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患、保存修復・歯内療法』医歯薬出版(売店で購入してください)					
参考書・教材	プリント等の必要な資料は、適宜配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯内療法の概要について考える(主な歯内疾患の概要と原因、歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類など) [準備・課題] 歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の臨床的種類と症状を復習し、まとめる。(3h)					
2	歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の処置について考える (歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の治療概要、歯内療法特有の検査と診断など)					
3	歯髄保存療法について考える(歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬など) [準備・課題] 歯髄鎮痛消炎療法の概要・適応症・使用薬剤について復習し、まとめる。(3~4h)					
4	歯髄保存療法、覆髄法について考える(間接覆髄法、直接覆髄法、暫時的間接覆髄法(IPC法)など) [準備・課題] 覆髄法の概要・適応症・薬剤・術式について復習し、まとめる。(3~4h)					
5	歯髄の除去療法について考える(歯髄切断法、抜髄法など) [準備・課題] 歯髄切断法、抜髄法の概要・適応症・薬剤・術式について復習し、まとめる。(3~4h)					
6	根管治療の術式について考える(1)(器材・薬剤、防湿、髄室開拓、根管口漏斗状拡大など) [準備・課題] 根管治療の術式について、順を追って復習し、まとめる。(4)					
7	根管治療の術式について考える(2)(根管長測定、根管消毒、仮封など) [準備・課題] 根管治療の術式を順を追って復習し、まとめる。(3~4h)					
8	根管治療の術式について考える(3)(根管充填の目的・時期、充填材の所要性質・種類など) [準備・課題] 根管治療の術式を順を追って復習し、まとめる。(3~4h)					
9	根管治療の術式について考える(4)(根管充填用器具、根管充填法など) [準備・課題] 根管治療の術式を順を追って復習し、まとめる。(4h)					
10	外科的歯内療法について考える(外科的歯内療法の種類と概要、適応症、術式など) [準備・課題] 種々ある外科的歯内療法を症例ごとに復習し、まとめる。(4h)					
11	歯の外傷について考える(歯の外傷の概要、分類と処置、歯の保存液を用いた歯の保存法など) [準備・課題] 歯の破折性外傷・脱臼性外傷、歯の保存液の役割・利用、外傷歯への具体的対応について復習し、まとめる。(3~4h)					
12	歯内療法における安全対策について考える (歯内治療用の根管内破折、根管治療の根管壁穿孔、皮下気腫、歯内治療用の誤嚥など) [準備・課題] 歯内療法における安全対策について復習し、まとめる。(3~4h)					
13	歯内療法における歯科衛生士の役割について考える (検査・診断時の業務、歯髄処置時の診療補助業務など) [準備・課題] 医療面接と検査、歯髄処置の流れ、歯内療法に使用する器材、薬剤の種類と取扱いなどについて復習し、まとめる。(3~4h)					
14	歯内療法における診療補助、器具・器材の管理について考える (直接抜髄法、根管治療、根管充填、外科的歯内療法など) [準備・課題] 直接抜髄法、根管治療、根管充填、外科的歯内療法などにおける手順について復習し、まとめる。(3~4h)					
15	歯のホワイトニング(ブリーチング)について考える (ウォッシングブリーチ法、オフィスブリーチ法、ホームブリーチ法など) [準備・課題] それぞれの方法の特徴や手順を復習し、まとめる。(3h)					
時間外での学習	講義で配布されるプリントやテキスト等で復習し理解を深め、[準備・課題]として示した内容を確実に学修しましょう。理解できないことや疑問があれば研究室を訪ねてください。					
受講学生へのメッセージ	歯内療法治療は保存修復治療と同様に歯科臨床において頻度が高い治療です。後期から臨床実習に臨むに当たり、それぞれの治療の流れ等を十分に習得するよう学修して下さい。また、質問して解決することも必要です。オフィスアワーは研究室(G206:G号館2F)で毎週木曜日の16:20~17:30です。					

歯科補綴学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：岩田 千鶴子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯科補綴治療は、歯の実質欠損と喪失した歯及びそれに伴う歯周組織の変化を人工材料で修復し、減弱または失われた形態や諸機能を回復させ、さらに歯の喪失により起こる障害を予防する治療法である。補綴治療には口腔内の症状や目的に応じ、それぞれ適応する補綴装置が用いられる。歯科補綴装置の内容や治療全体の流れ、また、補綴装置作製における技工操作の概略に重点を置いて学び、専門的知識の習得を目指す授業内容とする。					
授業方法	パワーポイントを用い、講義と討論形式を含めた授業展開を基本とする。また、本学科に保管される種々の補綴物や器具・材料などを回覧しながら理解を深めていく授業方法とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>[知識・理解] 補綴歯科治療や歯の欠損に伴う口腔の変化、補綴装置の種類と分類・特徴・構造を理解し、それに関する課題に対し、基本的な知識を理解し、考えることができる。(◎)</li> <li>[思考・判断・表現] 補綴歯科治療の実際を理解し、医療面接や患者指導等に結びつけながら、課題の解決を考えることができる。(△)</li> <li>[思考・判断・表現] クラウン、ブリッジ、有床義歯、インプラント治療などの補綴歯科治療の実際に関する知識を、課題解決に結びつけ判断することができる。(△)</li> <li>[関心・意欲・態度] 補綴歯科治療における検査・診断、治療時等の業務や患者指導に関心を持ち、学修に取り組むことができる。(△)</li> </ol>					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	まとめテスト	80	-	-	-	80
	レポート(毎回)	-	10	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	80	10	-	10	100
成績評価と割合	筆記試験(まとめテスト) 80%、レポート(毎回) 10%、受講態度 10% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴』医歯薬出版(売店で購入してください)					
参考書・教材	必要な参考資料は、適宜配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科補綴の概要について考える (歯科補綴とは、補綴歯科治療の意義と目的、特徴と歯科衛生士の役割など) [準備・課題] 補綴歯科治療の概要と歯科衛生士の役割を復習し、まとめる(3~4h)					
2	補綴歯科治療の基礎知識について考える (歯列弓の形態とその対合関係、補綴歯科治療で重要な基準平面、顎口腔系の機能、咬合様式と顎運動など) [準備・課題] 補綴歯科治療の基礎知識について復習し、まとめる(4h)					
3	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療について考える (歯の欠損に伴う障害と欠損に伴う口腔内変化・身体障害・心理的問題・社会的障害・合併症について考える) [準備・課題] 歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療について復習し、まとめる(3h)					
4	補綴装置の種類とその構造(固定性補綴装置、可撤性補綴装置(有床義歯))について考える [準備・課題] 種々の補綴装置を分類し、その構造や特徴を復習し、まとめる(3~4h)					
5	補綴装置の種類とその構造(固定性補綴装置、可撤性補綴装置(有床義歯))について考える [準備・課題] 種々の補綴装置を分類し、その構造や特徴を復習し、まとめる(3~4h)					
6	クラウン・ブリッジ治療の実際 (前処置、支台歯形成、印象採得・咬合採得からメンテナンス)について考える [準備・課題] クラウン・ブリッジ治療の流れを復習し、まとめる(3~4h)					
7	有床義歯治療の実際(全部床義歯・部分床義歯の流れ、有床義歯の管理)について考える [準備・課題] 有床義歯治療に必要とされる検査項目、診療室と技工室の作業について復習し、まとめる(3~5h)					
8	インプラント治療の実際(治療の流れ、プラークコントロールとメンテナンス)について考える [準備・課題] インプラント治療の概念および流れを復習し、まとめる(3~4h)					
9	補綴歯科治療に用いられる器材(切削・研磨・印象採得・咬合採得用器材、人工歯)について考える [準備・課題] 治療に必要な器具や材料を流れに沿って的確に配置できるよう復習し、まとめる(4h)					
10	補綴歯科治療における歯科技工(クラウン・ブリッジ・有床義歯の製作、補綴装置の補修)について考える [準備・課題] 補綴歯科治療における診療室での流れと歯科技工の流れを復習し、まとめる(3~4h)					
11	検査・診断の業務(ゴシックアーチ描記法、チェックバイト、平行測定、咬合音検査)について考える [準備・課題] 補綴歯科治療における検査器具・器材の用途・取扱いを復習し、まとめる(3~4h)					
12	治療時の歯科衛生士の業務(クラウン・ブリッジ(生活歯および失活歯)治療)について考える [準備・課題] 補綴歯科治療の各ステップで準備するものと補助内容を復習し、まとめる(3~4h)					
13	治療時の歯科衛生士の業務(有床義歯(全部床義歯)治療、有床義歯(部分床義歯)治療)について考える [準備・課題] 補綴歯科治療の各ステップで準備するものと補助内容を復習し、まとめる(3~4h)					
14	クラウン・ブリッジや有床義歯、インプラントの治療前・治療中・装着後、メンテナンスについて考える [準備・課題] 補綴歯科治療における治療前・治療中・治療後の患者指導について復習し、まとめる(4h)					
15	診療室、器具・器材別、滅菌・消毒・洗浄・保管、技工物関連の管理について考える [準備・課題] 補綴歯科治療における感染予防対策について復習し、まとめる(3~4h)					
時間外での学習	講義で配布されるプリントやテキスト等で復習し理解を深め、[準備・課題]として示した内容を確実に学修しましょう。理解できないことや疑問があれば研究室を訪ねてください。					
受講学生へのメッセージ	補綴物は目的に応じ多種多様で、医療の進歩とともにその内容も変化が大きいです。それを理解するには実物を見て学ぶこと。また、図書館等で調べること。また、質問して解決することも必要です。オフィスアワーは研究室(G206:G号館2F)で毎週木曜日の16:20~17:30です。					

口腔外科学	歯科衛生学科		2年前期			
	1単位		演習	30時間		
[教員]：長縄 吉幸						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	口腔外科領域の主な疾患の病態や治療法、全身疾患との関連性についての知識の修得と歯科衛生士の役割を認識することが大切である。 講義では、外科的治療に的確に対応できるよう、口腔疾患の概要、滅菌と消毒法、拔牙・口腔外科手術・インプラント埋入手術の介助や術前・術後の患者評価・管理、器械・器具の準備について解説する。その他に、疼痛性ショックなどの全身的偶発症が発生した場合に、迅速な処置ができるよう、救急蘇生法についても学習する。					
授業方法	講義主体でおこないます。小テスト及びレポート提出は適宜あります。					
到達目標	1. [知識・理解] 口腔外科疾患の病因を理解する。(◎) 2. [知識・理解] 歯科麻酔法について理解する。(◎) 3. [知識・理解] 画像診断について理解する。(◎) 4. [知識・理解] 口腔外科診療における歯科衛生士の役割を理解する。(◎) 5. [知識・理解] 処置前・後の患者の状態が評価できる。(◎) 6. [知識・理解] ヒヤリ・ハットの具体例からその対処法、予防法を理解する。(◎) 7. [関心・意欲・態度] 主体的に予習・復習を行い、授業に積極的に参加する。(○) 8. [関心・意欲・態度] 口腔外科学、麻酔学を通じて患者の身体的、精神的な状態を評価でき、必要とされる行動がとれる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	85	-	-	-	85
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計	85	-	-	15	100
成績評価と割合	筆記試験 85%、受講態度 15% の合計100%で評価します。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位をあたえません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』医歯薬出版 『ヒヤリ・ハットこんなときどうする？ 歯科治療時の救急テクニック1 第2版』永末書店					
参考書・教材	参考資料は適宜配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	口腔外科と歯科衛生士：口腔外科学の概要を理解し、口腔病変と全身、基礎疾患との関係を説明する。 [準備・課題]口腔外科疾患の診察・治療時における歯科衛生士の役割をまとめる。(1h)					
2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常： 歯の異常、口腔軟組織の先天異常、唇裂・口蓋裂の病態について説明する。 [準備・課題]顎・口腔領域の先天異常と発育異常をまとめる。(1h)					
3	顎・口腔領域の損傷及び機能障害： 歯の外傷、顎骨骨折、軟組織の損傷について症状、治療法などについて説明する。 顎関節疾患：顎関節症、顎関節脱臼、顎関節強直症の症状と治療法を説明する。 [準備・課題]顎・口腔領域の損傷及び機能障害をまとめる。(1h)					
4	口腔粘膜疾患： 水泡形成・紅斑およびびらん・潰瘍・白斑・色素沈着を主徴とする疾患の特について説明する。 [準備・課題]口腔粘膜疾患をまとめる。(1h)					
5	口腔粘膜疾患：萎縮、出血、乾燥を主徴とする疾患の特について説明する。 [準備・課題]口腔粘膜疾患をまとめる。(1h)					
6	化膿性炎症疾患：歯周組織・顎骨・顎骨周囲組織の炎症の病態について説明する。 [準備・課題]顎・口腔領域における化膿性炎症疾患をまとめる。(1h)					
7	顎・口腔領域の嚢胞性疾患：顎骨内にできる嚢胞、軟組織にできる嚢胞に分類し、特徴を説明する。 [準備・課題]顎・口腔領域の嚢胞性疾患をまとめる。(1h)					
8	顎・口腔領域の腫瘍及び腫瘍類似疾患：歯源性腫瘍、非歯源性良性腫瘍、非歯源性悪性腫瘍の種類と特徴を学び、さらに、前癌病変、腫瘍および類似疾患について説明する。 [準備・課題]顎・口腔領域の腫瘍及び腫瘍類似疾患をまとめる。(1h)					
9	唾液腺疾患：ムンプス、唾石症を中心に、唾液腺疾患の主要症状、治療法を説明する。 [準備・課題]唾液腺疾患をまとめる。(1h)					
10	口腔領域の神経疾患：三叉神経痛、顔面神経麻痺の症状を説明する。 [準備・課題]口腔領域の神経疾患をまとめる。(1h)					
11	口腔外科手術（1）：口腔小手術法について理解し説明する。 [準備・課題]口腔小手術の種類・方法をまとめる。(1h)					
12	口腔外科手術（2）：口腔小手術法について理解し説明する。 [準備・課題]口腔小手術の種類・方法をまとめる。(1h)					
13	歯科麻酔（1）：局所麻酔について学習する。 [準備・課題]局所麻酔法をまとめる。(1h)					
14	歯科麻酔（2）：精神鎮静法、全身麻酔について学習する。 [準備・課題]精神鎮静法をまとめる。(1h)					
15	歯科麻酔（3）：救急蘇生法の学習と共にヒヤリ・ハットについて学習する。 [準備・課題]救急蘇生法の手順・方法をまとめる。(1h)					
時間外での学習	講義の最後に出した課題について次の授業まで調べておいてください。					
受講学生へのメッセージ	講義内容が広範囲で時間的に余裕ありません。従って予習・復習が極めて大事です。 歯科衛生士という国家資格を得ることが目的だと自覚し、モチベーションを持ってください。 疑問点は積極的に質問してください。 オフィスアワーは教室で毎週火曜日の16：10から17：00です。					



矯正歯科学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：石川 隆義						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯科矯正治療の目的、治療年齢に応じた顎・顔面・歯列の発育、不正咬合の原因、不正咬合の診断、治療内容の実際などを修得して、矯正治療の中での診療補助・予防処置・口腔衛生指導を歯科衛生士が柔軟に行える基本を身につけることを目標とする。また、不正咬合の原因である口腔にまつわる様々な悪習癖の除去への指導等、歯科衛生士にとって重要な役割についても理解し、修得できる授業内容とする。					
授業方法	講義と小グループでの討議形式を含めた授業展開で進めていく。歯科衛生士が関わる歯科矯正領域の様々な問題解決に向けて、思考する能力育成を重視した授業方法をとる。					
到達目標	1. [知識・理解] 顎・顔面・頭蓋および歯列の成長発育ついて理解ができる。(◎) 2. [知識・理解] 不正咬合の分類、原因、予防について説明ができる。(◎) 3. [知識・理解] 矯正治療による歯の移動における生物力学を理解ができる。(◎) 4. [知識・理解] 矯正治療に使用する器材とその取り扱い方を説明ができる。(◎) 5. [知識・理解] 矯正治療を行なっている患者に対して、治療の動機づけや装置について説明ができる。(◎) 6. [知識・理解] 歯科矯正における歯科衛生士の職業的役割として、特に口腔衛生指導・管理の説明ができる。(◎) 7. [関心・意欲・態度] 歯科矯正に関する疑問点を自己学修によって解決ができる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計	80	-	-	20	100
成績評価と割合	筆記試験(定期試験時)80%、受講態度(履修カルテ)20%で評価する。 全授業の1/3以上を欠席した者は、受験資格無し。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正』医歯薬出版					
参考書・教材	山内和夫/他編『歯学生のための歯科矯正学』医歯薬出版					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	矯正歯科治療の概要：歯科矯正学の定義について述べた後、歯科矯正治療の目的、必要性、歴史や歯科衛生士の役割について言及する。 [準備・課題]学修内容を復習し、特に矯正歯科治療における歯科衛生士の役割についてまとめる。(1h)					
2	成長発育：頭部と顔面の成長発育について述べた後、特に上顎・下顎それぞれの発育様式と歯列の成長についても解説していく。 [準備・課題]学修内容を復習し、顎・顔面・頭蓋の成長発育についてまとめる。(1h)					
3	正常咬合と不正咬合：乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期におけるそれぞれの正常咬合について述べ、歯科矯正治療のゴールとしての咬合について考える。 [準備・課題]学修内容を復習し、特に不正咬合の分類についてまとめる。(1h)					
4	矯正歯科診断：歯科矯正における診査、診断、治療計画の立て方について述べるが、特に症例分析法について詳述する。 [準備・課題]学修内容を復習し、歯科矯正における診査、診断、治療計画の流れについてまとめる。(1h)					
5	矯正歯科治療と力：矯正力の種類について述べた後、歯の移動と組織反応、さらには歯の移動様式について詳述する。 [準備・課題]矯正力による圧迫側、牽引側での病理学的反応についてまとめる。(1h)					
6	矯正装置について(1)：可撤式矯正装置と固定式矯正装置について解説する。 [準備・課題]学修内容を復習し、可撤式と固定式の矯正装置の適応症についてまとめる。(1h)					
7	矯正装置について(2)：機能的矯正装置、上顎側方拡大装置、顎外固定装置、保定装置等について解説する。 [準備・課題]学修内容を復習し、特に機能的矯正の意味と顎外固定装置の種類についてまとめる。(1h)					
8	上下顎の不調和：上下顎の近遠心的関係と垂直的關係の不調和について述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、特に上顎前突、下顎前突、開咬、過蓋咬合についてまとめる。(1h)					
9	成人矯正：成人矯正歯科治療の実際について述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、成人の矯正歯科治療の診断とその治療についてまとめる。(1h)					
10	口腔顎顔面の形成異常：口唇・口蓋裂、顎変形症について述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、口腔顎顔面に生じる先天的形成異常とその対応についてまとめる。(1h)					
11	歯の埋伏と歯数の異常：埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯について述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、埋伏歯、先天欠如歯、過剰歯への対処法についてまとめる。(1h)					
12	矯正歯科治療のトラブル：齶蝕、歯肉炎症、歯周疾患、歯根吸収、顎関節症、アレルギー等に対する対応について述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、矯正歯科治療のトラブルの具体例とその対応についてまとめる。(1h)					
13	矯正歯科診療時の業務：矯正歯科器具・材料の準備と取り扱い、矯正装置の補助と指導について述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、矯正歯科診療時の歯科衛生士の実際業務についてまとめる。(1h)					
14	矯正歯科患者と口腔保健管理：歯科矯正における歯科衛生士の役割として特に口腔衛生指導・管理を中心に述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、歯科矯正における歯科衛生士の口腔保健管理の重要性についてまとめる。(1h)					
15	口腔筋機能療法：口腔筋機能療法の指導法とその効果について述べる。 [準備・課題]学修内容を復習し、口腔筋機能療法の実際の手順についてまとめる。(1h)					
時間外での学習	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、石川研究室まで問題点を整理して聞きにきてください。					

受講学生への  
メッセージ

将来歯科衛生士として、歯科矯正等の歯科医療を担う一員としての自覚を十分にもって、予習・復習を  
しっかりして授業に積極的に出席する事。  
オフィスアワーは、毎週木曜日の5時限目16：20から17：50です。

高齢者・障がい者歯科学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：村田 直彦・久本 たき子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	わが国は超高齢社会を迎え、高齢者の口腔の健康維持・増進には、高齢者それぞれの身体的・精神的状況に応じた適切な口腔ケアの実践が緊急の課題になっている。また、障がい者歯科の最も重要な特質は、身体的、知的、あるいは精神的な障がいのある人を対象として、不安や恐怖、リスクが伴う歯科治療をいかにして最小限になるよう障がい者の口腔保健管理を行うことにある。この科目は、高齢者・障がい者への歯科的支援を実際に行うための基盤となる専門的知識を修得できることをねらいとする。					
授業方法	講義と演習を含めた授業展開で進めていく。歯科衛生士が関わる障がい者歯科並びに高齢者歯科領域の様々な問題解決に向けて思考する基礎知識を獲得する授業である。					
到達目標	1. [知識・理解] 障がいの概念、障がい者歯科の特質、行動調整さらに障がい者の生活と歯科的支援について説明する。(◎) 2. [知識・理解] 障がいの種類と歯科的特徴および障がい者の服用薬と歯科保健の問題について説明する。(◎) 3. [知識・理解] 高齢者をとりまく社会の環境について説明する。(◎) 4. [知識・理解] 加齢による身体的疾患・精神的疾患および口腔疾患について説明する。(◎) 5. [関心・意欲・態度] 自己の体調管理に留意し、毎回の授業を主体的に受講する。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	80	-	-	-	80
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計	80	-	-	20	100
成績評価と割合	筆記試験 80% (村田40% 久本40%)、受講態度 20% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、全授業の1/3以上を欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 障害者歯科 第2版』医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』医歯薬出版株式会社					
参考書・教材	森崎市治郎 他著『障害者歯科ガイドブック』医歯薬出版 6,825円					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(村田)	障がい者の現況と歯科診療：障がいの概念について述べ、障がい者歯科の特質、行動調整について言及し、さらに障がい者の生活と歯科的支援について解説する。 [準備・課題]障がい者歯科の特徴についてまとめる。(1h)					
2(村田)	障がいの種類と歯科的特徴：精神遅滞、ダウン症候群、自閉性障害、脳性麻痺、筋ジストロフィー、てんかん、重症心身障がいの歯科的特徴について解説する。 [準備・課題]障がいの種類と歯科的特徴についてまとめる。(1h)					
3(村田)	障がい者と薬剤：障がい者の服用薬と歯科保健の問題について、抗てんかん薬、降圧薬、抗凝固薬、向精神薬を中心に詳述する。 [準備・課題]障がい者の服用薬と歯科保健の問題についてまとめる。(1h)					
4(村田)	障がい者歯科における歯科衛生士の役割：障がい者に対する基本的対応や業務記録とその管理、摂食・嚥下障害への対応について解説する。 [準備・課題]障がい者に対する基本的対応や業務記録とその管理、摂食・嚥下障害への対応についてまとめる。(1h)					
5(村田)	障がい者の歯科診療と歯科診療補助：行動調整における歯科診療補助の実際、歯科治療時の工夫と留意点、障がい別の対応について解説する。 [準備・課題]歯科診療補助における障がい別の対応についてまとめる。(1h)					
6(村田)	障がい者の口腔保健管理：歯科衛生士から障がい者への口腔保健管理の留意点と実際について解説する。 [準備・課題]障がい者への口腔保健管理の留意点と実際についてまとめる。(1h)					
7(村田)	障がい者の歯科保健指導：歯科衛生士から障がい者への歯科保健指導の留意点と実際について解説する。 [準備・課題]障がい者への歯科保健指導の留意点と実際についてまとめる。(2h)					
8(村田)	障がい者歯科で学んだ知識のまとめ					
9(久本)	序章とI編 高齢者をとりまく社会の環境 1章 高齢社会と健康、2章一①高齢者にかかわる法制度①老人保健・医療・福祉対策の経緯について概略を述べ、解説する。 [準備・課題]高齢者にかかわる法制度についてまとめる。(1h)					
10(久本)	I編 高齢者をとりまく社会の環境、2章介護保険制度、3章高齢者の居住形態・施設について概略を述べ解説する。 [準備・課題]介護保険制度についてまとめる。(1h)					
11(久本)	II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患 1章加齢に伴う身体的機能の変化について述べ、解説する。 [準備・課題]加齢に伴う身体的機能の変化についてまとめる。(1h)					
12(久本)	II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患 2章高齢者の精神・心理的变化について述べ、解説する。 [準備・課題]2章高齢者の精神・心理的变化についてまとめる。(1h)					
13(久本)	II編 加齢による身体的・精神的変化と疾患 3章高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患について述べ、解説する。 [準備・課題]高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患についてまとめる。(1h)					
14(久本)	III編 高齢者の状態の把握 高齢者の生活機能の評価 1章 生活・ADL評価について述べ、解説する。 [準備・課題]高齢者の生活機能の評価について復習する。(1h)					
15(久本)	III編 高齢者の状態の把握 3章高齢者の栄養状態 4章高齢者の薬剤服用について述べ解説する。 [準備・課題]高齢者の栄養状態、薬剤服用について復習する。(1h)					
時間外での学習	各回の授業のテーマに関してテキスト等で予習を行い、授業後は配布プリントやテキスト等を復習し理解を深める事。わからない点、疑問点は図書館等で調べ解決への努力をしてください。自分で調べても問題解決できない場合は、問題点を整理してオフィスアワー等に質問にきてください。					
受講学生へのメッセージ	将来歯科衛生士として、高齢者や障がい者歯科等の歯科医療を担う一員としての自覚を十分にもち、予習・復習を行い、授業に積極的に出席してください。					

オフィスアワーは、木曜日5時限(村田) 研究室 (G205 : G号館2F) 、  
火曜日5時限 (久本) 研究室 (G304 : G号館3F) です。

医療保険		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位		講義	15時間	
[教員]：岩田 千鶴子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	現在、多くの一般歯科医院では保険中心の医療がおこなわれている。そのため種々の歯科治療の流れと内容を確実にし、将来医療従事者として必要な医療保険の基礎知識、診療録の整理、診療報酬明細書についてなど診療室における実際を理解できるよう進める。					
授業方法	授業は講義と討論形式を含めた展開とし、2年前期までに学んだ歯科疾患の進行状況に沿った症状とそれに対する病名、処置内容などを再度整理していく。それを基に、症例を持って保険請求の仕方について学習する。					
到達目標	1. [知識・理解] レセプトの様式、記入・提出等々の保険医療制度の規則や規約、また、歯科診療における傷病名や処置・手術名、検査・薬剤等の基本的な知識を理解できる。(◎) 2. [思考・判断・表現] 保険医療制度の在り方、それに対する歯科衛生士の関わり方を人間の生活に結びつけながら思考し、課題の解決を考えることができる。(△) 3. [関心・意欲・態度] 数々の歯科治療における症例を基に、カルテの解釈や保険請求方法などに関する課題に関心を持ち、積極的に努力しながら学修に取り組むことができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験(まとめテスト)	80	-	-	-	80
	レポート(毎回)	-	10	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	80	10	-	10	100
成績評価と割合	筆記試験(まとめテスト) 80%、レポート(毎回) 10%、受講態度 10%の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『歯科保険請求マニュアル 歯の知識と請求の実務』医歯薬出版(売店で購入してください)					
参考書・教材	必要な資料は、適宜配布する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	保険の基礎知識、レセプトと保険請求の仕組みについて考える (レセプトの基礎知識と医療保険の位置づけ、請求明細書の書き方、略記号など) [準備・課題] レセプトと保険請求の仕組みを復習し、まとめる(2~4h)					
2	請求明細書の書き方について考える (基本診療料、指導管理等、画像診断〈エックス線検査〉、検査関連など) [準備・課題] 請求明細書の書き方について復習し、まとめる(3h)					
3	初期う蝕の治療の流れとカルテの記載や保険請求について考える (各症例における保険点数算定の留意事項など) [準備・課題] レセプト記載が正しくできるようカルテの記載や保険算定の留意事項を症例ごとに復習し、まとめる(2~4h)					
4	歯髄・根管処置の流れとカルテの記載や保険請求について考える (各症例における保険点数算定の留意事項など) [準備・課題] レセプト記載が正しくできるようカルテの記載や保険算定の留意事項を症例ごとに復習し、まとめる(2~4h)					
5	歯周治療の流れとカルテの記載や保険請求について考える(各症例における保険点数算定の留意事項など) [準備・課題] レセプト記載が正しくできるようカルテの記載や保険算定の留意事項を症例ごとに復習し、まとめる(2~4h)					
6	歯冠修復やブリッジ処置の流れとカルテの記載や保険請求について考える (各症例における保険点数算定の留意事項など) [準備・課題] レセプト記載が正しくできるようカルテの記載や保険算定の留意事項を症例ごとに復習し、まとめる(3h)					
7	有床義歯処置の流れとカルテの記載や保険点数算定について考える (各症例における保険点数算定の留意事項など) [準備・課題] レセプト記載が正しくできるようカルテの記載や保険算定の留意事項を症例ごとに復習し、まとめる(3~4h)					
8	傷病名、処置・手術名、歯科用医薬品など歯科の診療録および診療報酬明細書に使用できる略称についてまとめる [準備・課題] 歯科臨床の場で学ぶに当たり、診療録の内容が理解できるよう略称を確実にするため復習し、まとめる(3h)					
時間外での学習	臨床実習に臨むにあたり、歯科治療の流れはもちろんのこと、歯科保険診療の略称に対する理解は必修です。テキスト等で復習し理解を深め、[準備・課題]として示した内容を確実に学修しましょう。理解できないことや疑問があれば研究室を訪ねてください。					
受講学生へのメッセージ	歯科疾患名と診療内容や手順との関連を中心に学習するため、2年生前期までに学習した臨床科目の基礎的知識を整理し、復習しておくことが望まれます。また、質問して解決することも必要です。オフィスアワーは研究室(G206:G号館2F)で毎週木曜日の16:20~17:30です。					

臨床医学 I		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：宇治 誠人						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	臨床医学すなわち生活に即した実際の医療（内科・外科・産婦人科など）の基礎知識を身につけることを目的とする。日々更新される医療の実際を体感し、自身の社会生活および就職後の患者・家族に対して適切な対応ができるような人間形成をめざす。					
授業方法	簡便でup to dateな教科書を用いた講義を中心とする。実際の臨床家としての感覚を伝えるべくスライド・動画なども交えた生き生きとした授業を提供する。					
到達目標	1. [知識・理解] 各論としての臨床医学（外科・内科など）の概要を理解する。（◎） 2. [思考・判断・表現] 現代社会で起こる多様な医学環境の変化に対して敏感に反応できる感覚を身につける。（◎） 3. [関心・意欲・態度] 身の回りの医療の中にある問題点を見だし、自ら解決に向けた学習行動を起こす。（△）					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	60	-	-	-	60
	レポート	-	30	-	-	30
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	60	30	-	10	100
成績評価と割合	筆記試験 60%、レポート 30%、受講態度 10% の合計100%で評価する。 筆記試験は定期試験で、レポート提出は最終授業で行う。 欠席は減点としませんが1/3以上の欠席者には単位が与えられません。					
テキスト	『PT・OT・STのための一般臨床医学』 2,808円 医歯薬出版 ISBN:978-4-263-21932-4					
参考書・教材	必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	救命救急疾患 1 [準備・課題] バイタルサインとショックについて (1.5h)					
2	救命救急疾患 2 [準備・課題] ショックの初期治療、心肺蘇生法 (1.5h)					
3	外科総論 1 [準備・課題] 外傷の診断・治療 (1.5h)					
4	外科総論 2 [準備・課題] 腫瘍性疾患の診断・治療 (1.5h)					
5	脳神経外科総論 [準備・課題] 脳神経分野の解剖、病態、治療 (1.5h)					
6	皮膚疾患 [準備・課題] 皮膚の役割、代表的な疾患について (1.5h)					
7	泌尿器・生殖器疾患 [準備・課題] 泌尿器の解剖、病態、治療 (1.5h)					
8	婦人科・産科疾患 [準備・課題] 妊娠と不妊 (1.5h)					
9	眼疾患 [準備・課題] 眼の構造、代表的な検査や病態 (1.5h)					
10	耳鼻咽喉科疾患 [準備・課題] 各器官の構造や疾患 (1.5h)					
11	老年医学 [準備・課題] 高齢者ケア、高齢者によく見られる疾患 (1.5h)					
12	医学用語 [準備・課題] 臨床医学においてよく使用される用語 (1.5h)					
13	薬剤学概論 [準備・課題] 注意すべき副作用 (1.5h)					
14	消化器癌概論 [準備・課題] 抗がん剤の役割 (1.5h)					
15	レポート提出（テーマは事前に提示します）					
時間外での学習	ネットを用いた自己学習、特に海外の主たる医療施設（MDアンダーソン・メイヨークリニックなど）のHPを参照してインターナショナルな感覚を養う。					
受講学生へのメッセージ	臨床医学は将来の自分・家族を守るためにも必要な知識です。職業としてだけでなく、活力ある人間として生きていくためのサプリメントだと思って授業を受けてもらえれば幸いです。 オフィスアワーは授業終了後です。					

臨床医学Ⅱ	歯科衛生学科		2年後期			
	1単位		演習	30時間		
[教員]：坪井 英之						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	口腔は身体の一部であり、多くの重要な機能を有している。近年、口腔疾患と全身疾患との関係の重要性も明らかになってきた。そこで、口腔機能や口腔疾患をふまえながら、人体の健康維持機能と代表的な内科疾患について学ぶこととする。高齢者についての知識も深めていく。高齢者は、感染症や認知症の予防などにおいて口腔管理の恩恵を大きく享受できることを学び、口腔管理の重要性をしっかりと認識していく内容とする。					
授業方法	講義形式 できるだけ動画、図などを用いて視覚で理解できるようにする。 また適宜こちらから、質問を投げかけることによって積極的に講義に参加してもらう。					
到達目標	1. [知識・理解] 体の構造を理解し、生命の本質を考察する。(◎) 2. [知識・理解] 疾患と生活習慣との関係について理解する。(◎) 3. [知識・理解] 西洋医学と東洋医学(漢方医学)、それぞれの良さを知る。(◎) 4. [知識・理解] 各種内科疾患の診断と治療を理解する。(◎) 5. [知識・理解] 口腔機能と全身疾患との関係を、確実に把握する。(◎) 6. [知識・理解] 高齢者の心身の特徴と老化について関連付ける。(◎) 7. [知識・理解] 高齢者の疾患の特異性、診断と治療を理解する。(◎) 8. [知識・理解] 高齢者における口腔管理の重要性を認識する。(◎) 9. [関心・意欲・態度] 医療人としての自己管理ができ、積極的に授業に参加することができる(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	85	-	-	-	85
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計	85	-	-	15	100
成績評価と割合	筆記試験85%、受講態度15%の合計100%で評価する。 1/3以上の欠席は受験資格無しとする。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学』 医歯薬出版					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	医学概論(1)：体の構造と環境との関係					
2	医学概論(2)：生活習慣と疾患について					
3	内科学総論：西洋医学と東洋医学					
4	内科学各論(1)：呼吸器疾患 [準備・課題]呼吸器疾患についてまとめる(1h)					
5	内科学各論(2)：循環器疾患 [準備・課題]循環器疾患についてまとめる(1h)					
6	内科学各論(3)：脳神経・筋疾患 [準備・課題]脳神経・筋疾患についてまとめる(1h)					
7	内科学各論(4)：消化器疾患 [準備・課題]消化器疾患についてまとめる(1h)					
8	内科学各論(5)：免疫 [準備・課題]免疫についてまとめる(1h)					
9	内科学各論(6)：代謝・腎疾患 [準備・課題]代謝・腎疾患についてまとめる(1h)					
10	内科学各論(7)：内分泌疾患 [準備・課題]内分泌疾患についてまとめる(1h)					
11	女性医学：女性のからだと漢方 [準備・課題]女性のからだと漢方についてまとめる(1h)					
12	老年学総論：加齢とは、老化とは [準備・課題]加齢と老化についてまとめる(1h)					
13	老年学各論(1)：認知症を中心に [準備・課題]認知症(他)についてまとめる(1h)					
14	老年学各論(2)：口腔管理の重要性 [準備・課題]口腔管理の重要性についてまとめる(1h)					
15	総括：内科学・老年学等の総まとめ [準備・課題]総合的なまとめの復習(1h)					
時間外での学習	授業を受けながら、まずは自分自身の心・体・生活を見つめてみてください。次に、周りの人の健康や病気にも注目してみてください。気づいたり疑問を見つれたりして、興味を持って授業に臨んでください。					
受講学生へのメッセージ	人体の仕組みは素晴らしく、臨床医学を学びながらその素晴らしさを十分に理解してください。口腔は健康の要となる役割を担っており、口腔管理のかけがえのない価値をしっかりと認識してください。オフィスアワーは、教室にて講義終了後とします。					

歯周病予防技術法Ⅲ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		実習	45時間	
[教員]：阿尾 敦子・縄田 理佳・今井 藍子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯周病予防技術法Ⅰに続いた実習科目です。手用スケーラーの中で、臨床現場で主に使用されているシックススケーラーとキュレットスケーラーを用い、歯肉縁上だけでなく、歯肉縁下の歯石除去法の技術を修得します。					
授業方法	実習科目です。講義・示説で知識を学び、基礎実習で歯石除去技術を身につけ、相互実習で口腔内に応用します。					
到達目標	1. [知識・理解] スケーリング・ルートプレーニング (SRP) に使用するスケーラーの種類と特徴を説明する (◎) 2. [知識・理解] 歯周治療におけるスケーリング・ルートプレーニングの概要を説明する (◎) 3. [技能] スケーラーのシャープニング方法を理解し、実施する (◎) 4. [技能] SRP の部位別操作法を理解し、マネキンに対し基本操作を実施する (◎) 5. [技能] 相互実習で口腔内の現状や実施内容を把握し、生体へのSRPを実施する (◎) 6. [関心・意欲・態度] 主体的に知識・技能の修得に取り組むことができる (△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	定期試験	30	-	50	-	80
	レポート	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	40	-	50	10	100
成績評価と割合	定期試験 80% (実技 50%、筆記 30%)、レポート 10%、受講態度 10% の合計100%で評価する。 ※定期試験は、実技・筆記ともに6割以上を合格とする。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した場合は受験資格がありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論』医歯薬出版					
参考書・教材	その他の資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	シックススケーラーの復習：シックススケーラー部位別操作法とシャープニングの復習 [準備・課題]シックススケーラーの部位別操作法を復習する (1h)					
2	相互実習①：シックススケーラーで下顎のスケーリングを相互に実習する [準備・課題]実習の内容を振り返り、良かった点や悪かった点をまとめる (1h)					
3	キュレットスケーラーの基礎知識：キュレットスケーラーの基礎知識、シャープニング法を理解する					
4	相互実習②：シックススケーラーで上顎のスケーリングを相互に実習する [準備・課題]実習の内容を振り返り、良かった点や悪かった点をまとめる (1h)					
5	キュレットのマネキン実習①：キュレットスケーラーで前歯のスケーリングを実習する					
6	相互実習③：キュレットスケーラーで前歯のスケーリングを相互に実習する [準備・課題]実習の内容を振り返り、良かった点や悪かった点をまとめる (1h)					
7	キュレットのマネキン実習②：キュレットスケーラーで下顎臼歯のスケーリングを実習する					
8	相互実習④：キュレットスケーラーで下顎臼歯のスケーリングを相互に実習する [準備・課題]実習の内容を振り返り、良かった点や悪かった点をまとめる (1h)					
9	キュレットのマネキン実習③：キュレットスケーラーで上顎臼歯のスケーリングを実習する					
10	相互実習⑤：キュレットスケーラーで上顎臼歯のスケーリングを相互に実習する [準備・課題]実習の内容を振り返り、良かった点や悪かった点をまとめる (1h)					
11	実技まとめ：キュレットスケーラーの基本操作を復習する					
12	実技チェック (マネキンを使用)：キュレットスケーラーの基本操作を試験形式で確認する					
13	実技再指導 (マネキンを使用)：手用スケーリングの知識・基本技術の総復習をする					
時間外での学習	口腔内で鋭利な器具を使用するため、確実な操作が必要であり、一定以上の知識・技術レベルが要求されます。授業時間以外にも自ら練習をして、技術を向上させてください。[準備・課題]では実習ごとに技術の自己チェックをしてください。					
受講学生へのメッセージ	本科目は、回数を経るごとに知識学修→基礎実習→相互実習と進んでいきます。授業を欠席すると次のステップに進むために大変な努力を要します。体調管理を徹底し、欠席をしないようにしてください。オフィスアワーは研究室で木曜日の5限です。					



う蝕予防処置法Ⅱ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：飯岡 美幸・今井 藍子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	う蝕予防処置法とは、法律で歯科医師と歯科衛生士のみ許されている専門的技術です。この授業は、「う蝕予防処置法Ⅰ」で学んだ齲蝕のプロセス、リスク、プロフェッショナルケアの重要性を理解したうえで、う蝕を予防するための具体的方法を学び、患者指導を含めたう蝕予防処置法の知識、技能を修得することをねらいとしています。					
授業方法	演習・実習が中心となります。各項目において、講義で知識を修得したのち、基礎実習、グループでの相互実習を行い理解を深めます。					
到達目標	1. [知識・理解] う蝕予防処置法の種類とその作用機序、効果、適応症、禁忌症を説明できる(◎) 2. [知識・理解] 各種う蝕予防処置法の特徴を理解し、安全に応用することができる(◎) 3. [技能] 各種齲蝕予防処置法の術前説明と術後指導を述べ、業務記録を書くことができる(△) 4. [関心・意欲・態度] 齲蝕予防処置法の知識修得のために、積極的に学習に取り組むことができる(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	定期試験	70	-	-	-	70
	復習テスト	10	-	-	-	10
	レポート	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	80	-	10	10	100
成績評価と割合	定期試験 70%、復習テスト 10%、レポート 10%、受講態度 10% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した場合は受験資格はありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版					
参考書・教材	その他参考資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	フッ化物歯面塗布法①：フッ化物歯面塗布法の基礎知識（術式と患者指導）を理解する。 [準備・課題]フッ化物歯面塗布法の術式を復習する（1h）					
2	フッ化物歯面塗布法②：フッ化物歯面塗布法のうち、綿球法、歯ブラシ法を相互に実習する。 [準備・課題]フッ化物歯面塗布法の手順と注意点をまとめる（2h）					
3	フッ化物歯面塗布法③： フッ化物歯面塗布法のうち、トレー法、マウスピース法、イオン導入法を相互に実習する。 [準備・課題]トレー法、マウスピース法、イオン導入法の手順と注意点をまとめる（2h）					
4	フッ化物集団応用法：集団にフッ化物を応用する方法として、各個法、チーム法（ロータリー法・フロー法）、洗口法を理解する。 [準備・課題]フッ化物の集団応用と洗口法の特徴と注意点をまとめる（2h）					
5	フッ化ジアンミン銀応用法：フッ化ジアンミン銀塗布の基礎知識を理解する。 [準備・課題]フッ化ジアンミン銀塗布の特徴と注意点をまとめる（2h）					
6	小窩裂溝充填塞法①：小窩裂溝充填塞法の基礎知識を理解し、模型上で実習する。 [準備・課題]小窩裂溝充填塞法の特徴をまとめる（2h）					
7	小窩裂溝充填塞法②：ラバーダム防湿を行い、小窩裂溝充填塞法を相互に実習する。 [準備・課題]小窩裂溝充填塞法の手順を復習する（2h）					
8	まとめ：各種う蝕予防処置法の復習、まとめを行う。 [準備・課題]各種う蝕予防処置法の特徴、手順、注意点をまとめる。（2h）					
時間外での学習	『う蝕予防処置法Ⅰ』の基礎知識を十分理解したうえでの受講が必要です。実習には、「診療補助実習Ⅱ」で学ぶラバーダム防湿を行うものがあります。再度、相互実習前に練習し、操作できるよう復習してください。					
受講学生へのメッセージ	1年次で履修した「口腔衛生学」「う蝕予防処置法Ⅰ」に関連しています。復習をしっかり行い、この授業に臨むこと。欠席しないよう、自己の健康管理を行ってください。オフィスアワーはスタッフルームで火曜日5限目です。					

口腔ケア技術演習		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：飯岡 美幸・久本 たき子・水嶋 広美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	障がい者、要支援者、要介護者のQOLを向上するために口腔のケアを実践することは重要であり、口腔ケアは誤嚥性肺炎の予防にもつながります。したがって、前期で履修した「介護技術演習」で学んだ基本的な介護技術を基礎として、各症例に応じた口腔ケア技術の基礎を習得します。また、歯科衛生士が行う居宅療養管理指導における口腔ケアプランを立案します。					
授業方法	実習・演習：前半は器質的な口腔ケアの相互実習を行い、後半は口腔ケアプランが作成できるように演習を行います。					
到達目標	1. [知識・理解] 口腔ケアの意義と目的や口腔清掃用品の種類を述べることがきる。(◎) 2. [知識・理解] 義歯の清掃と取扱いの注意事項を述べ、歯科衛生臨床アセスメントを説明できる。(◎) 3. [知識・理解] 在宅の要介護者における口腔ケアプランを立案できる。(◎) 4. [技能] 相互実習を行い、介助磨き法の基本の手技・操作を修得できる。(◎) 5. [関心・意欲・態度] 自己の体調管理を行い、主体的に受講できる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	55	-	-	-	55
	実技試験	-	-	30	-	30
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計	55	-	30	15	100
成績評価と割合	筆記試験 55% 実技試験 30% 受講態度 15% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、授業実施時間の1/3以上欠席した学生には単位は与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』医歯薬出版 『歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション』医歯薬出版					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	口腔ケアの意義と目的について解説する。口腔清掃用品の理解と改良歯ブラシの工夫を行う。 [準備・課題]口腔のケアの意義と目的をまとめ、口腔清掃用品の種類について復習する。(2h)					
2	器質的口腔ケア相互実習(1)：介助磨き法の基本技術を学生相互で実習する。 [準備・課題]介助磨き法の基本技術を復習し患者側の視点で術者に対する技術の改善点を検討する。(2h)					
3	器質的口腔ケア相互実習(2)： 視覚障がい者と聴覚障がい者への口腔ケアの技術法について相互実習を行う。 [準備・課題]視覚障がい者と聴覚障害者の対応技術を復習する。(2h)					
4	器質的口腔ケア相互実習(3)： 集中治療室における口腔のケア技術と吸引ブラシを使用した口腔ケア技術法の相互実習を行う。 [準備・課題]器質的口腔ケア技術法における基本技術の復習をする。(2h)					
5	器質的口腔ケアの基本技術の実技チェック [準備・課題]実技チェックを振り返り、技術不足の項目について復習する。(2h)					
6	実技チェック後の再指導を行い、義歯の着脱法について学ぶ。 また、今までの口腔ケア実習のまとめを行う。 [準備・課題]再指導された項目について復習し再度教員のチェックを受け、アセスメント項目を復習する。(2h)					
7	歯科衛生臨床アセスメントと口腔ケアプランの立案について解説し、口腔ケアプランを立案する。 [準備・課題]授業立案した口腔ケアプランを再考する。(2h)					
8	立案した要介護高齢者の口腔ケアプランの記載方法の留意点を確認し、口腔ケアプランの修正をする。 [準備・課題]口腔ケアプランの作成方法を復習する。(2h)					
時間外での学習	前半の器質的な口腔ケアの相互実習では、術式の復習を行ってください。後半の口腔ケアプラン作成では、特に介護保険制度のしくみについて理解を深める学修をしてください。					
受講学生へのメッセージ	対象者とコミュニケーションをとることにより、対象者の情報量が増加することを念頭におきコミュニケーション能力の向上に努めるようにしましょう。 オフィスアワー：スタッフルーム（G202：G号館2F）火曜日5限目です。					

摂食・嚥下リハビリテーション学		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		実習	45時間	
[教員]：久本 たき子・三角 洋美・村田 宜彦						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	口腔は単に食べるだけではなく、コミュニケーションなど人にとって欠かせない器官です。障がい者や高齢者など、QOLを向上するためには、口腔機能の維持・向上はかせません。歯科衛生士の行う口腔のケアは、口腔清掃だけではなく口腔機能向上のための訓練を行っていく必要があります。前半では、摂食嚥下障害の特性やスクリーニング法、訓練方法の基礎知識を学び、基本的技術を修得します。後半では、臨床における症例から、学び深めることを目指します。					
授業方法	講義、グループワーク、基礎実習など授業内容の項目により行います。					
到達目標	1. [知識・理解] 摂食嚥下障害の原因や分類を述べる。(◎) 2. [知識・理解] 摂食嚥下に必要な器官の解剖学的名称を確認し、摂食嚥下のメカニズムを説明する。(◎) 3. [知識・理解] 摂食嚥下障害のスクリーニング法を説明する。(◎) 4. [知識・理解] 間接訓練方法と直接訓練方法を理解する。(◎) 5. [知識・理解] 介護予防プラン（口腔機能の向上）の作成方法を知る。(◎) 6. [技能] 摂食嚥下機能のスクリーニング法を実施する。(△) 7. [関心・意欲・態度] 自己の体調管理を行い、主体的に受講できる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験（久本）	65	-	-	-	65
	課題レポート（村田）	10	-	-	-	10
	小テスト（久本）	5	-	-	-	5
	実技試験（久本・三角）	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
合計	80	-	10	10	100	
成績評価と割合	筆記試験65% 小テスト・課題レポート15% 実技試験10% 受講態度10%の合計100%で評価します。欠席を減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』医歯薬出版					
参考書・教材	授業資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1(久本・三角)	〈総論〉摂食嚥下障害の病態、原因などを学ぶ。摂食嚥下のメカニズムを知り、解剖学的知識を確認する。 [準備・課題] 摂食嚥下のメカニズムと解剖学的知識を復習する。(0.5h)					
2(久本・三角)	〈摂食・嚥下にかかわる検査〉摂食嚥下機能評価の検査を理解し、スクリーニング法を実習し、評価基準を学ぶ。 [準備・課題] スクリーニングの方法とその評価基準を復習する。(0.5h)					
3(久本・三角)	〈摂食嚥下における間接訓練〉間接訓練法1 準備期・口腔期に作用する基本訓練を学び、実習する。 [準備・課題] 間接訓練法（準備期・口腔期）の基本訓練を復習する。(0.5h)					
4(久本・三角)	〈摂食嚥下における間接訓練〉間接訓練法2 咽頭期に作用する基本訓練を学び実習する。 [準備・課題] 間接訓練法（咽頭期）の基本訓練を復習する。(0.5h)					
5(久本・三角)	〈介護予防プラン作成〉 介護予防における口腔機能向上のアセスメントについて学び、介護予防プランを作成する。 [準備・課題] 口腔機能向上のアセスメント項目について復習する。(0.5h)					
6(久本・三角)	〈摂食嚥下における直接訓練〉直接訓練の種類と方法を学び、相互実習を行う。 [準備・課題] 直接訓練の種類と方法を復習する。(0.5h)					
7(久本・三角)	スクリーニング法の実技チェックを行う。 [準備・課題] 実技チェックで行った内容を振り返り、改善点を復習する。(0.5h)					
8(村田)	〈臨床に必要な知識の確認〉 神経内科、脳外科、口腔外科疾患が摂食嚥下機能にどのように影響するか学ぶ。 [準備・課題] 神経内科、脳外科、口腔外科疾患が摂食嚥下障害にどのように影響するか復習する。(0.5h)					
9(村田)	〈症例検討1〉実際の症例についてスクリーニング法、評価法、訓練法について学ぶ。 (高齢者、脳血管疾患) [準備・課題] 高齢者や脳血管疾患における摂食嚥下障害のスクリーニング法、評価法、訓練法について復習する。(0.5h)					
10(村田)	〈症例検討2〉実際の症例についてスクリーニング法、評価法、訓練法について学ぶ。(発達障がい児) [準備・課題] 発達障がい児における摂食嚥下障害のスクリーニング法、評価法、訓練法について復習する。(0.5h)					
11(村田)	〈症例検討3〉実際の症例についてスクリーニング法、評価法、訓練法について学ぶ。(小児) [準備・課題] 小児における摂食嚥下障害のスクリーニング法、評価法、訓練法について復習する。(0.5h)					
12(久本・三角)	これまでの授業のフィードバック及び総括を行う。					
時間外での学習	1年時に学ぶ解剖学や生理学などの知識が必要になります。また、知識確認のため小テストを随時行います。復習をしっかりと行い定期試験に臨んでください。					
受講学生へのメッセージ	選択科目ですが、後期開講の「口腔ケア技術演習」と関連性のある科目であり、臨床・臨地実習、国家試験に必要な内容であるため受講を勧めます。これからの歯科衛生士にはなくてはならない知識・技術です。 オフィスアワーは、久本：火曜日5時限、研究室（G304：G号館3F）、村田：木曜日5時限、研究室（G205：G号館2F）、三角：火曜日5時限（G405：G号館4F）です。					

保健指導法Ⅱ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：阿尾 敦子・今井 藍子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯科保健指導とは、個人を対象としてその人の生活行動をその人に適した歯科保健行動に変容させるための専門的な立場からの助言や援助をいいます。この授業では1年生で学んだ内容をもとに、相互実習で対面行為をとおして、手技やコミュニケーション力を養うことを目的としています。					
授業方法	「歯科保健指導基礎」「保健指導法Ⅰ」で学んだ知識を基にして、相互に情報収集から保健指導を実施し、理解を深める。					
到達目標	1. [知識・理解] 患者指導のための基礎的知識を理解する(◎) 2. [知識・理解] 各種口腔内診査法の特徴を理解し、患者に合わせた評価ができる(◎) 3. [知識・理解] 各種口腔清掃法の特徴を理解し、患者に合わせた選択ができる(◎) 4. [思考・判断・表現] 情報収集で得られた内容から、患者に合わせたケアの計画・実施ができる(◎) 5. [技能] 対面行為をとおして、適切にコミュニケーションを図り、ブラッシング指導を実施する(△) 6. [関心・意欲・態度] 授業への積極的参加と自学自習ができる(△) 7. [関心・意欲・態度] 課題を指定の書式でまとめ、期限までに提出できる(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	定期試験	50	-	-	-	50
	課題	-	30	-	-	30
	相互実習	-	-	10	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	50	30	10	10	100
成績評価と割合	定期試験50%、課題30%、相互実習10%、受講態度10% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した場合は受験資格はありません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版』医歯薬出版					
参考書・教材	その他資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス：相互実習での情報収集の方法を確認する [準備・課題] 今日勉強したことを復習する (1h)					
2	情報収集(1)：医療面接から口腔内診査までを相互に実施し、情報収集を行う [準備・課題] 患者の情報をまとめる (2h)					
3	情報収集(2)：医療面接から口腔内診査までを相互に実施し、情報収集を行う [準備・課題] 患者の情報をまとめる (2h)					
4	情報の分析、指導案作成：情報を整理・分析し、患者のブラッシング指導案を作成する [準備・課題] 患者の指導案をまとめる (2h)					
5	ブラッシング技術の確認：患者にブラッシング方法を伝達するための技術確認 [準備・課題] 顎模型上でのブラッシング技術を復習する (2h)					
6	ブラッシング指導実習：指導案に沿ってブラッシング指導を相互に実施する [準備・課題] 実施したブラッシング方法を記録にまとめる (2h)					
7	業務記録の作成：相互実習で行ったブラッシング指導内容をSOAPで業務記録にまとめる [準備・課題] 歯科衛生業務記録を作成する (2h)					
8	症例検討：グループで事例に合ったブラッシング方法を検討し、まとめる [準備・課題] 症例検討をまとめる (2h)					
時間外での学習	次回の授業を円滑に進めるために、[準備・課題]に示した内容は責任を持って取り組みましょう。					
受講学生へのメッセージ	臨床現場で行う保健指導の基礎となり、歯科衛生士にとって重要な役割のひとつとなります。積極的な授業参加を期待します。 オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。					

発達口腔保健演習Ⅱ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：三角 洋美・久本 たき子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	1年後期で行った発達口腔保健演習Ⅰでは、妊産婦期～学齢期までのステージについて演習を通し歯科保健対策を学修しました。この発達口腔保健演習Ⅱでは、青年期、成人期、老年期の特徴や口腔内状況を理解し、対象者に応じた歯科保健指導が行えるように学修を進めていきます。また、各ライフステージの歯科保健対策における歯科衛生介入について考えていきます。					
授業方法	講義・演習：講義とグループワーク形式で行います。					
到達目標	1. [知識・理解] 口腔の健康支援が出来るように、健康づくり対策について述べ、青年期・成人期・老年期の特徴とその歯科保健対策を考え、専門的な知識を得る。(◎) 2. [技能] 基本的技術の一つとして、レポート内容が指示通り記載できる。(△) 3. [関心・意欲・態度] 毎回の授業態度を振り返り、医療人として自己の体調管理ができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	定期試験(筆記試験)	80	-	-	-	80
	小テスト	5	-	-	-	5
	レポート	-	-	5	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	85	-	5	10	100
成績評価と割合	定期試験(筆記) 80%、小テスト 5%、レポート 5%、受講態度 10% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、授業実施時間の1/3以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 保健生態学 第2版』医歯薬出版					
参考書・教材	『栄養と代謝』『歯と口の健康百科』『高齢者歯科』医歯薬出版 『食品成分表2015』女子栄養大学出版部 *『高齢者歯科』以外は、すべて1年次に購入済み					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<概論>ライフステージにおける歯科衛生介入：学齢期総括と概論 [準備・課題]学齢期の各学年の歯科保健指導のポイントをまとめる。 また、レポートとして「特定健康診査と特定保健指導」の内容について調べる。(1h)					
2	ライフステージにおける歯科衛生介入4<青年期> 青年期の一般的特徴と口腔の特徴、歯科保健指導(食生活指導)、禁煙指導について解説する。 健康づくり対策と地域歯科保健対策の変遷を解説する。 [準備・課題]3日間の食事記録を指定の記入用紙に記載し、提出する。(2h)					
3	ライフステージにおける歯科衛生介入5<成人期①> 成人期の一般的特徴と口腔の特徴、生活習慣病と歯科疾患の関連性について、歯科保健指導、歯科受診行動について解説する。また、各種調査結果から定期歯科受診の特徴や行動変容について考える。 生活習慣病と歯科疾患の関連性について、歯科保健指導原稿を作成する。 [準備・課題]成人期における一般的特徴と口腔の特徴、歯科保健指導について復習する(2h)					
4	ライフステージにおける歯科衛生介入5<成人期②> 我が国の栄養摂取の現状と対策について解説する。栄養アセスメントや生活習慣病予防と栄養ケアについて、健康日本21(第二次)の目標と併せて保健対策を考える。 学生の食事摂取状況から、栄養価の計算を行う。 [準備・課題]栄養アセスメントや栄養ケア、栄養価の計算を復習する。(2h)					
5	ライフステージにおける歯科衛生介入6<老年期・要介護者・障がい者③> 老年期の歯科保健指導(義歯安定剤・洗浄剤使用方法)と知覚過敏症のメカニズムについて解説する。 (学外講師)「特定健康診査と特定保健指導」のレポートの内容について確認を行う。 [準備・課題]義歯安定剤・洗浄剤の使用方法和知覚過敏症のメカニズムについて復習する。(2h)					
6	ライフステージにおける歯科衛生介入6<老年期・要介護者・障がい者①> 老年期・要介護者と障がい者の一般的特徴と口腔の特徴を述べ、老年期の食生活の特徴と食生活栄養指導について解説し、食形態の違い、高たんぱく食を体験実習する [準備・課題]老年期・要介護者・障がい者の食生活指導や歯科保健指導について復習する。(2h)					
7	ライフステージにおける歯科衛生介入6<老年期・要介護者・障がい者②> 加齢に伴う心身の衰えによってあらわれる身体的・精神的変化にフレイル、サルコペニア、老年症候群について解説する。それについてのスクリーニング方法について実習する。 [準備・課題]老年期・要介護者・障がい者の身体的・精神的変化の特徴についてまとめる。(2h)					
8	ライフステージにおける歯科衛生介入7<学齢期におけるポピュレーションアプローチ> 上級生が発表する「学齢期の歯科保健指導」を見学し、集団指導のポイントについて考える。 また、ライフステージ(青年期～老年期)における歯科衛生介入のまとめを行う。 [準備・課題]上級生の発表内容のポイントをまとめ、各ライフステージの歯科保健対策について復習する。(2h)					
時間外での学習	課題レポート：「特定健康診査・特定保健指導」について調べ、レポート提出を課します。提出内容に関しては、講義で説明します。提出期限を守りましょう。					
受講学生へのメッセージ	口腔から全身をとらえ対象者に健康づくりを支援していく立場になることを十分に理解してください。また、演習時はグループ別で取り組むこともあるため、各自が主体的に授業に参加する態度で臨んでください。オフィスアワーは、火曜日の5時限で(三角)研究室(G405:G号館4F)、同じく火曜日の5時限で(久本)研究室(G304:G号館)です。					

地域歯科保健活動Ⅰ		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位		実習	45時間	
[教員]：阿尾 敦子・三角 洋美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	地域の人々の日常生活をよりよい方向へ導くことは、口腔の健康の維持・増進のためにはきわめて重要なことです。この授業では『ヘルスプロモーション』理論を理解します。さらに、子育てサロンや地域の高校生への保健指導、小学校への健康教育実施計画立案をとおして、地域の人々の日常生活をよりよい方向へ導くために必要な知識、技能の修得を目的としています。					
授業方法	実習とグループ演習が中心となります。グループ演習では学生同士で積極的に意見交換をしながらコミュニケーション力を高めます。本学で開催される「子育てサロン」へ実習に行きます。					
到達目標	1. [知識・理解] 集団を対象に健康管理について説明できる (◎) 2. [知識・理解] 歯科健康教育における歯科衛生士の役割、関連法規を説明できる (◎) 3. [思考・判断・表現] 乳幼児・児童・生徒の実態を把握し、歯科健康教育計画が立案できる (○) 4. [思考・判断・表現] グループ演習で自分の意見を述べたり人の意見を聞くことができる (○) 5. [技能] 乳幼児の保護者を対象に、口腔ケアの方法が説明できる (△) 6. [関心・意欲・態度] 演習や実習 (現場) への積極的参加と自学自習ができる (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	定期試験	60	-	-	-	60
	課題	-	10	-	5	15
	演習	-	10	5	-	15
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	60	20	5	15	100
成績評価と割合	筆記試験60%、課題15% (内容10%、提出5%)、演習15%、受講態度10% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した場合は受験資格はありません					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第2版』医歯薬出版					
参考書・教材	『新版 家族のための 歯と口の健康百科』医歯薬出版					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	歯科健康教育とは：地域歯科保健活動における歯科健康教育とは [準備・課題] 乳幼児やその保護者の特性やニーズに関する情報を収集する (1h)					
2	乳幼児期 (1)：歯科衛生アセスメント (情報収集・処理 子育てサロン聞き取り) 乳幼児やその保護者の情報収集と整理・分類					
3	乳幼児期 (2)：歯科衛生アセスメント (情報処理)、歯科衛生診断 (問題の明確化) アセスメント結果をもとに対象者の問題点を明らかにする					
4	乳幼児期 (3)：歯科衛生計画立案 問題点から目標の設定、介入方法の決定、指導案作成をする [準備・課題] 乳幼児の口腔内の特徴や仕上げ磨きの指導ポイントなどを確認しておく (1h)					
5	乳幼児期 (4)：教育原稿・媒体作製 歯科衛生介入に必要な媒体を作製する					
6	青年期 (1)：歯科衛生アセスメント・問題の明確化・歯科衛生計画立案 (高校歯科保健指導実習) アセスメント結果をもとに対象者の問題点を明らかにする 問題点から目標の設定、歯科衛生介入方法の決定をする [準備・課題] 高校生の特性やニーズに関連する情報を収集してくる (1h)					
7	青年期 (2)：教育原稿・媒体作製 (高校歯科保健指導実習) 高校生に対する介入計画から指導案を作成する					
8	学齢期 (1)：学校歯科保健とは (歯科保健問題・学校歯科健康診断)、子育てサロン実習 (1) 児童・生徒の情報収集と整理・分類 [準備・課題] 児童・生徒の特性やニーズに関連する情報を収集してくる (1h)					
9	学齢期 (2)：歯科衛生アセスメント (情報収集・処理)、子育てサロン実習 (2) 児童・生徒の情報収集と整理・分類					
10	学齢期 (3)：歯科衛生診断 (問題の明確化)、子育てサロン実習 (3) アセスメント結果をもとに対象者の問題点を明らかにする					
11	学齢期 (4)：歯科衛生計画立案 (児童・生徒に対する問題点から歯科衛生計画を立案する) 問題点から目標の設定、歯科衛生介入方法の決定をする					
12	学齢期 (5)：教育原稿・媒体作製 1 児童・生徒に対する介入計画から指導案を作成する					
13	学齢期 (6)：教育原稿・媒体作製 2 児童・生徒に対する介入計画から教育原稿、媒体を作成する					
時間外での学習	学内や地域での歯科保健活動を実践するため多職種との連携が必要となります。多職種についての知識を深めておきましょう。時間外を活用し、健康教育のための媒体作製を行ってください。					
受講学生へのメッセージ	地域歯科保健活動を実践するため、演習には積極的に参加し自らの知識・技能の向上を目指すことを期待しています。 オフィスアワーは研究室で木曜5限目です。					

診療補助実習 I		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：飯岡 美幸・三角 洋美・岩田 千鶴子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	日常の臨床において、歯科診療の流れを理解したうえでのアシスタントワークは、診療を円滑に行っていくためにも必要不可欠なものです。そのアシスタントワークの中でも、歯科材料の取り扱い、基本的性質の理解と適正な取り扱い方法を習得することが重要となります。そのため、この授業では、歯科材料に対する知識を深めると同時にその取り扱い技術を磨き、様々な状況に合わせた適切な対応を学びます。					
授業方法	示説にて診療の流れや使用器材の基礎知識を理解し、器材の名称、用途、使用法と手技を身につけていきます。					
到達目標	1. [知識・理解] それぞれの診療の術式を理解し、その術式の中で使用される器材の準備、取り扱い方法を説明できる。(◎) 2. [知識・理解] 診療時における共同動作を行う上で必要な知識・技術・態度（患者への配慮）が修得できる。(◎) 3. [技能] 各材料の用途を説明し、正しい取り扱いができる。(◎) 4. [関心・意欲・態度] 授業への積極的参加と自学自修ができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	30	-	-	-	30
	実技試験	-	-	40	-	40
	受講態度	-	-	-	15	15
	復習テスト	5	-	-	-	5
	レポート	10	-	-	-	10
合計	45	-	40	15	100	
成績評価と割合	筆記試験 30%、実技試験 40%、復習テスト 5%、レポート 10%、受講態度 15% の合計100%で評価します。 実技、筆記共に各6割以上で単位取得となります。 欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生は定期試験を受験することはできません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患—保存修復学・歯内療法学』医歯薬出版 『新歯科衛生士教本 歯科材料の知識と取扱』医歯薬出版 『新歯科衛生士教本 歯科器械の知識と取扱』医歯薬出版 『イラストと写真でわかる歯科材料の基礎』永末出版 『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版					
参考書・教材	必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	合着材の取り扱い、合着材総論 合着材の種類と特徴、準備器材について理解し、合着材の基本的練和方法を修得をする。 [準備・課題]合着材の練和操作を復習する。(2h)					
2	各種合着材の取り扱い 各種合着材の種類と特徴、準備器材について理解し、各種合着材の基本的練和方法を修得する。 [準備・課題]合着材の練和操作を復習する。(2h)					
3	成形歯冠修復のための窩洞形成 隔壁調整 窩洞形成に使用される切削具の種類と名称、特徴について学ぶ。 隔壁調整について知識と技術を修得する。 [準備・課題]切削具と隔壁調整についてまとめる。(2h)					
4	成形歯冠修復材総論 コンポジットレジン充填 成形歯冠修復材の種類、性質について知識を習得する。 コンポジットレジン充填の術式と器材を理解するため人工歯の窩洞にコンポジットレジン充填する。 その際のアシスタントワークも修得する。 [準備・課題]成形歯冠修復材の種類、性質、名称、特徴をまとめる。コンポジットレジン充填の手順をまとめ制作物の評価をする。(2h)					
5	成形歯冠修復材研磨 研磨具 研磨具について学び、前回充填したコンポジットレジンの研磨を行なう。 その際のアシスタントワークも修得する。 [準備・課題]コンポジットレジンの研磨の手順をまとめ、制作物の評価をする。(2h)					
6	X線撮影法 X線撮影方法の口内法・口外法を相互で実習する。 [準備・課題]エックス線撮影の手順をまとめ、撮影したエックス線写真の評価をする。(2h)					
7	個人トレーの作製、仮封材の取り扱い 精密印象採得時に使用する個人トレー作製を行い、精密印象について理解を深める。 仮封の目的・仮封材の種類・用途を学び、取り扱い方法を実習する。 [準備・課題]各種仮封材の種類、用途、特徴をまとめる。個人トレーの作成方法を復習する。(2h)					
8	ワックスについて 各種ワックスの特徴と用途を学ぶ。 [準備・課題]各種ワックスの特徴、用途を復習する。(1h)					
時間外での学習	この授業では、取り扱う材料・器具の種類が多いため、時間内のみでの名称・用途・取り扱い方法の習得は難しい。自宅学習や放課後を活用して確実に習得してください。授業前には前回の復習テストを行うので、知識面での復習も行ってください。					
受講学生へのメッセージ	知識と技術の習得にとどまらず、実習の中で職業人としてのマナーを学び、歯科衛生士ならではのアシスタントワークができるよう努力してください。 オフィスアワー：スタッフルーム（G202：G号館2F）火曜日5限目です。					

診療補助実習Ⅱ		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：水嶋 広美・飯岡 美幸・今井 藍子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯科医療を行う際、術者とチームを組む補助者は、積極的かつ確実な共同動作が要求されます。この授業では、「歯内療法(歯髄処置)」「口腔外科(抜歯)」を中心に、それぞれの診療の術式を理解し、その術式の中で使用される器材の準備、取り扱い方法を習得します。また、診療時における共同動作を行う上で必要な知識・技術・態度(患者への配慮)を学びます。					
授業方法	講義、示説で理解し後、歯科治療で使用されている器具、器材の名称、用途、使用法について実際に身につけていきます。					
到達目標	1.[知識・理解] ラバーダム防湿の意義、術式、使用器具を理解し、実施する。(◎) 2.[知識・理解] 歯内療法(歯髄処置)」「口腔外科(抜歯)」を中心に、それぞれの診療の術式を理解し、その術式の中で使用される器材の準備、取り扱い方法を説明する。(◎) 3.[知識・理解] 「歯内療法(歯髄処置)」で、使用される小材料の用途と作製方法を説明する。(◎) 4.[技能] 診療時における共同動作を行う上で適切な技術・態度(患者への配慮)を実施することができる。(◎) 5.[関心・意欲・態度] 授業への積極的参加と、自ら問題点を探し出し、自己学習によって関心と意欲をもって解決するための能力を培うことができる。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	40	-	-	-	40
	復習テスト	10	-	-	-	10
	製作物	-	-	10	-	10
	実技試験	-	-	30	-	30
	レポート課題・履修カルテ	-	-	-	10	10
合計	50	-	40	10	100	
成績評価と割合	筆記試験 40%、復習テスト 10%、製作物 10%、実技試験 30%、レポート課題(内容・提出状態)・履修カルテ(毎回の実習記録) 10% の合計 100% で評価します。 筆記試験と共に実技試験が各6割以上ないと単位を与えません。 欠席は減点として、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』医歯薬出版 『改訂版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎』永末書店 『新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料の知識と取り扱い』医歯薬出版 『新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科器械の知識と取り扱い』医歯薬出版					
参考書・教材	資料は、適宜配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ラバーダム防湿① 総論(目的・器具の名称と用途・手順) [準備・課題]学んだことを復習し、ラバーダム防湿ができるようにする。(1h)					
2	ラバーダム防湿② (各部位ごとの防湿方法) [準備・課題]各部位にラバーダム防湿ができるようにする。(2h)					
3	ラバーダム防湿③ (応用：多数歯による方法) 歯内療法① 歯髄保存療法の手順、準備、薬剤や器材の取り扱い [準備・課題]歯髄保存修復の内容の復習する。(2h)					
4	歯内療法② 麻酔抜髄法の手順、準備、薬剤や器材の取り扱い [準備・課題]麻酔抜髄法の内容の復習する。(2h)					
5	歯内療法③ 根管治療・根管充填の手順、準備、薬剤や器材の取り扱い [準備・課題]根管治療・根管充填の内容を復習する。(2h)					
6	口腔外科・麻酔① 局所麻酔時に用いる薬剤や器材について 普通抜歯の手順、使用する器材、名称、用途について [準備・課題]麻酔・普通抜歯手順、器材について復習する。(2h)					
7	口腔外科・麻酔② 難抜歯・小手術の手順、使用する器材について 外科で使用する器材の取り扱い [準備・課題]難抜歯・小手術手順、器材について復習、外科器具の取り扱いができるようになる。(2h)					
8	歯内療法・口腔外科器具器材準備 器具の取り扱いの実技試験 [準備・課題]実技試験で出題された器具、器材の再確認をし、名称、使用目的を理解できるようになる。(2h)					
時間外での学習	「保存修復学・歯内療法学」「口腔外科学」などの科目との関連が深いので、講義と実習その両方を総合的に理解することが大切です。その為に、毎回実習で、復習テストを行います。治療の流れや、使用した器具・器材の名称、用途を復習して覚えていくようにしてください。					
受講学生へのメッセージ	この授業で使用される器具・器材は、日常臨床で毎日見るようなものばかりです。名称、用途は確実に覚えられるようにして置くと、臨床実習がより理解できます。 オフィスアワーは研究室 (G306 : G号館3F)で毎週木曜日の16 : 20から17 : 20です。					



診療補助実習Ⅲ		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：村田 直彦・飯岡 美幸・三角 洋美						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯科臨床の場で直接患者と接する歯科衛生士が、患者の状態を示す臨床データを正しく理解することは必要なことであり、それを踏まえた臨床対応は必要不可欠なものとなります。そのため、各種の検査方法や正常値と病態などの関係の基礎知識を理解することが必要となります。ここでは臨床検査の基礎知識の習得と検査方法を学びます。また、歯科治療中の偶発症時の対応として、救急蘇生法について学びます。					
授業方法	講義と示説で理解し、実際に検査を行いながら、測定方法を習得し、結果からデータを分析していきます。また、救急処置として基本を身につけていきます。					
到達目標	1. [知識・理解] 臨床検査方法および検査値を理解できる。(◎) 2. [技能] 臨床検査の概要を説明し実施する。(◎) 3. [関心・意欲・態度] 主体的に学修できる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験	-	-	30	-	30
	復習テスト	10	-	-	-	10
	レポート評価	-	-	-	10	10
	履修カルテ	-	-	-	10	10
	合計	50	-	30	20	100
成績評価と割合	筆記試験 40%、実技試験 30%、復習テスト 10%、レポート評価 10%、履修カルテ 10% の合計100%で評価します。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 臨床検査』医歯薬出版					
参考書・教材	『ヒヤリ・ハットこんなときどうする？ 歯科治療時の救急テクニック1』 ¥3,200+税 永末書店					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	臨床検査の目的と意義 臨床検査の必要性と歯科衛生士の役割について 生理検査の種類とその概要脈拍・体温測定実習 [準備・課題]生理検査の種類および方法についてまとめる。(0.5h)					
2	生理検査 血圧測定の実習、検査成績の読み方 [準備・課題]血圧測定法、検査成績の読み方をまとめる。(0.5h)					
3	血液検査(1) (血液型検査・出血性素因の検査・貧血検査) 検査の目的および方法 正常値の理解と検査結果からわかること [準備・課題]血液型検査・出血性素因の検査・貧血検査についてまとめる。(0.5h)					
4	血液検査(2)及びその他の検査 (感染症検査・肝機能検査・病理検査) 各検査の目的および方法 正常値の理解と検査結果からわかること [準備・課題]感染症検査・肝機能検査・病理検査についてまとめる。(0.5h)					
5	口腔領域の臨床検査 唾液や歯垢を検査する方法、検査結果からわかること [準備・課題]口腔領域の臨床検査についてまとめる。(0.5h)					
6	臨床検査法実技チェック [準備・課題]実技チェックを自身で分析し、知識・技術不足の項目について復習する。(0.5h)					
7	救命救急法 救急蘇生の処置法を身につける (AEDの実習) [準備・課題]救急蘇生の処置法をまとめる。(0.5h)					
8	尿検査・糖尿病検査 尿検査・糖尿病検査の目的及び方法 正常値の理解と検査結果からわかること 尿検査実習 [準備・課題]尿検査・糖尿病検査 尿検査・糖尿病検査の目的及び方法をまとめる。(0.5h)					
時間外での学習	生理学や解剖学との関連が深いので復習しておいてください。					
受講学生へのメッセージ	各検査の目的を理解する為に、検査ごとのレポートはしっかりまとめながら復習してください。 質問があるときはオフィスアワー (木曜日5時限目) に村田研究室まで来てください					

診療補助実習Ⅳ		歯科衛生学科		2年後期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：水嶋 広美・岩田 千鶴子・村田 宜彦・縄田 理佳・今井 藍子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	本実習は、診療補助実習Ⅰ・Ⅱ に引き続き、各診療過程における知識・技術や器具の取扱い、共同動作を身につけるとともに、患者への配慮を習得します。開講時期が臨床・臨地実習に出る前の期間であるため、実際の臨床の場に即した技能を習得することを狙いとします。					
授業方法	前半は主として実習、後半は講義を中心に行います。					
到達目標	1. [知識・理解] 各術式や診療報酬請求の手順を理解する (◎) 2. [知識・理解] 口腔内写真撮影法の意義・方法を述べることができる (◎) 3. [知識・理解] X線写真撮影法についての知識・手技を述べるができる (◎) 4. [知識・理解] 医療安全管理 (医療従事者への対応)を理解する (◎) 5. [知識・理解] 口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する (◎) 6. [知識・理解] インプラントにおける歯科衛生士の役割を理解する (◎) 7. [技能] 口内法エックス線撮影のフィルムの位置づけ方法と写真処理の方法と手順を説明し実施できる。 (○) 8. [技能] パノラマエックス線撮影の患者の位置づけを説明し実施できる。 (○) 9. [技能] 口腔内写真の撮影の方法と手順を説明し実施できる。 (○) 10. [技能] 暫間被覆冠の作成及び仮着の手順を説明し実施できる。 (○) 11. [関心・意欲・態度] 歯科診療においてそれぞれの課題に関心を持ち、積極的に取り組み理解することができる。 (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	60	-	-	-	60
	製作物	-	-	10	-	10
	レポート課題内容	-	-	15	-	15
	レポート課題提出	-	-	-	10	10
	履修カルテ	-	-	-	5	5
合計	60	-	25	15	100	
成績評価と割合	筆記試験 60%、製作物 10%、レポート課題内容 15%、レポート課題提出状況 10%、履修カルテ (毎回) 5% の合計100%で評価します。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。					
テキスト	『新歯科衛生士教本 診療補助 歯科器械の知識と取り扱い』医歯薬出版 『新歯科衛生士教本 診療補助 歯科材料の知識と取り扱い』医歯薬出版 『歯科保険請求マニュアル』医歯薬出版 『改訂版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎』永末書店 『最新歯科衛生士教本 歯科放射線』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』医歯薬出版					
参考書・教材	『新歯科衛生士教本 歯科診療補助』資料は適宜配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	実習ガイダンス 暫間被覆冠及び仮着材の取り扱い・口腔内写真撮影についての実習説明 [準備・課題] 実習について復習してまとめる。(1h)					
2	暫間被覆冠及び仮着材の取り扱い (暫間被覆冠を使用する方法・印象法) [準備・課題] 暫間被覆冠の作製法を復習しまとめる (2h)					
3	デジタルX線 (10枚法)、パノラマX線の撮影テクニックの理解と撮影実習 エックス線撮影の写真の整理・エックス線解剖の概要についての実習 [準備・課題] 撮影方法・撮影写真を整理し、エックス線像を復習しまとめる (2h)					
4	口腔内写真撮影法を理解する (カメラ仕組み、準備、手順を実習) [準備・課題] 口腔内撮影法を手順、撮影した写真をまとめる (2h)					
5	口腔外科における歯科衛生士の業務、インプラント治療時のアシスタントワークの実際 [準備・課題] 学習した内容を復習しまとめる (2h)					
6	医療安全管理 (医療従事者への対応) [準備・課題] 学習した内容を復習しまとめる (2h)					
7	パノラマエックス線写真の解剖学的構造の位置と形態を理解する。 診療報酬請求法の実際① (CR症例、FMC症例) [準備・課題] 学習した内容を復習しまとめる (2h)					
8	診療報酬請求法の実際② (歯周病症例、全部床義歯、部分床義歯等) [課題] 学習した内容を復習しまとめる (2h)					
時間外での学習	実習を受けるにあたり、事前に該当分野の予習をしてから臨むようにしましょう。各单元ごとの課題をまとめ期日までに提出してください。					
受講学生へのメッセージ	本実習の知識は、2年生前期までに既習の内容が多く、臨床・臨地実習の現場で日常行われます。テキストや図書館の活用で、積極的に授業に参加してください。オフィスアワーは研究室 (G306:G号館3F)で毎週木曜日の16:20から17:20です。					

介護技術演習		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：井野根 繁子・藤原 学・飯岡 美幸						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	介護は実践であり、日常生活を営むことが困難な人々に対してその人が人間らしく生きられるように日常生活を支えることです。この理念を具体化するための手段が介護技術であり、後期に口腔ケア技術法を履修する前に介護技術を身につける必要があります。近年、口腔ケア技術の実践は、歯科衛生士に求められている領域であり、車いすの操作方法や衣類の着脱法など基礎技術を修得します。					
授業方法	主に実習中心の授業になります。後期に口腔ケア技術演習を履修する前に基礎介護技術を身につける実習です。					
到達目標	1. [知識・理解] 介護の意義、理念、原則を理解する。(◎) 2. [知識・理解] 視覚障がい者体験実習を通し、歩行介助の留意点を理解する。(◎) 3. [知識・理解] 高齢者疑似体験を通して高齢者の特徴・注意点を理解する。(◎) 4. [知識・理解] 食事介護における注意点を理解する。(◎) 5. [技能] 車いすを確実に操作できる。(◎) 6. [技能] ベッドや車いすの移乗介助や体位変換ができる。(◎) 7. [技能] 身体の清潔の意義を説明し、部分清拭(顔面)ができる。(◎) 8. [関心・意欲・態度] 毎回の授業で体調管理に心がけ主体的に受講する。(△)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	40	-	-	-	40
	実技試験	-	-	40	-	40
	小テスト	10	-	-	-	10
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	50	-	40	10	100
成績評価と割合	筆記試験40%、実技試験40%、小テスト10%、受講態度10%の合計100%で評価します。欠席は減点とし、授業実施時間の1/3以上欠席した学生には単位は与えません。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 第2版』医歯薬出版 『介護職員初任者研修テキスト 第2巻 自立に向けた介護の実際』中央法規					
参考書・教材	必要に応じて資料を配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	介護概論：(藤原) 介護の意義、理念、原則を述べ、わが国の人口構成の現状と将来について解説する。 生活行為を成立させるための技術1：(井野根 藤原) 視覚障がい者体験や歩行介助実習を通して介護技術を指導し、実習する。 [準備：課題]介護の意義、理念、原則についてまとめ、介護技術を復習する。(2h)					
2	AG：高齢者疑似体験：福祉用具について学外施設で学ぶ。(飯岡) [準備：課題]高齢者疑似体験・福祉用具の説明を受けた内容と感想をレポートにまとめる。(2h) BG：生活行為を成立させるための技術2：(井野根 藤原) 体位変換・移動動作：介護ベットを使用し、体位の変換等の実習を行う。 [準備：課題]体位交換について復習する。(2h)					
3	AG：生活行為を成立させるための技術2：(井野根 藤原) 体位変換・移動動作：介護ベットを使用し、体位交換等の実習を行う。 [準備：課題]体位交換について復習する。(2h) BG：高齢者疑似体験：福祉用具について学外施設で学ぶ。(飯岡) [準備：課題]高齢者疑似体験・福祉用具の説明を受けた内容と感想をレポートにまとめる。(2h)					
4	AG：生活行為を成立させるための技術3：(藤原 飯岡) 介護用ベットを使用し、シーツ交換・衣類の着脱法について講義し、実習を行う。 [準備：課題]シーツ交換方法、衣類の着脱について実習にて復習する。(2h) BG：食事介護の講義・相互実習を行う。(井野根) [準備：課題]食事介護について基礎知識をまとめる。(2h)					
5	AG：食事介護の講義・相互実習を行う。(井野根) [準備：課題]食事介護について基礎知識をまとめる。(2h) BG：生活行為を成立させるための技術3：(藤原 飯岡) 介護用ベットを使用し、シーツ交換・衣類の着脱法について講義し、実習を行う。 [準備：課題]シーツ交換方法、衣類の着脱について実習にて復習する。(2h)					
6	生活行為を成立させるための技術4：(井野根 藤原 飯岡) 身体の清潔介護(整容・部分清拭の介護) 身体の清潔について講義し、部分清拭(顔面等)の実習をグループで行う。 [準備：課題]身体の清潔についてまとめる。(2h)					
7	基礎技術のまとめ：実技チェック(井野根 藤原) [準備：課題]実技チェック後、技術不足について指導者から指摘された項目を復習する。(2h)					
8	介護技術知識のまとめ(井野根 藤原) [準備：課題]小テストで行った内容について復習する。(1h)					
時間外での学習	次の授業に小テストを実施しますので、授業内容を必ず復習してください。					
受講学生へのメッセージ	日頃から人間に対する観察力を養う必要があります。また、新聞等で高齢者・障がい者に関する記事を読み、関心を持つことを望みます。オフィスアワーは、授業終了後に行います。(井野根・藤原)					

看護演習		歯科衛生学科		2年前期		
		1単位		演習	30時間	
[教員]：水上 和典						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	歯科衛生士が同じ医療専門職である看護の知識と技術を学ぶことは、ケアを遂行するための一助となる。ここでは看護の基本的な知識と技術、疾患や社会背景から多職種協働に向けた豊かな考え方を学ぶ。					
授業方法	配布資料を活用し、講義および演習を行う。					
到達目標	1. [知識・理解] 看護における基本的知識の理解ができる。(◎) 2. [思考・判断] 多職種連携の必要性と方法を考えることができる。(◎) 3. [技能] 看護の基本的技術が実施できる。(△) 4. [関心・意欲・態度] 講義への積極的な参加および、発言等の自己の意見を示すことができる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	筆記試験	20	20	-	-	40
	小テストと課題	20	10	-	-	30
	ワークシートとリアクションペーパー	-	-	10	10	20
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計	40	30	10	20	100
成績評価と割合	筆記試験 40%、小テストと課題 30%、ワークシートとリアクションペーパー 20%、受講態度 10% の合計100%で評価する。 欠席は提出物等が未提出になるため減点となる。 また、1/3以上の欠席の場合は定期試験の受験資格を満たさない。					
テキスト	ありません。					
参考書・教材	教材：適宜、資料を配布します。 参考書：ナーシング・グラフィカ シリーズ (メディカ出版) 系統看護学講座 シリーズ (医学書院)					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス (講義の進め方、評価方法、授業の内容等) 【講義】 看護とは何か。技術とは何か。 [準備・課題] 看護および看護技術についてまとめる (1h)					
2	環境を整える技術① 【講義】 医療職者が整えるべき環境の内容					
3	環境を整える技術② 【演習】 環境測定とまとめ [準備・課題] 安全・快適な環境についてまとめる (2h)					
4	医療職としてのコミュニケーション技術 【講義】 コミュニケーションの技法 [準備・課題] コミュニケーションの必要性をまとめる (1h)					
5	看護技術① (ボディメカニクス) 【講義・演習】					
6	看護技術② (車椅子、ストレッチャーの移動) 【講義・演習】 [準備・課題] 演習内容の技術についてまとめる (2h)					
7	看護技術③ (清潔・安楽の援助) 【講義・演習】 [準備・課題] 演習内容の技術についてまとめる (1h)					
8	看護技術④ (感染予防1) 【講義】 清潔・滅菌の概念とその維持 感染のメカニズム					
9	看護技術⑤ (感染予防2) 【演習】 衛生的手洗い・無菌操作 [準備・課題] 演習内容の技術についてまとめる (2h)					
10	解剖生理学の基本 【講義】 人体の構造のまとめ [準備・課題] 解剖生理の知識をまとめる (2h)					
11	疾患をもつ患者の看護① (消化器) 【講義】					
12	疾患をもつ患者の看護② (心疾患・呼吸器疾患) 【講義】					
13	疾患をもつ患者の看護③ (脳血管疾患、認知症) 【講義】					
14	地域で生活する療養者を支える社会資源 (介護保険を主に) 【講義】 [準備・課題] 近隣の社会資源を調べて活用事例をまとめる (4h)					
15	看護演習のまとめ 【講義】					
時間外での学習	[準備・課題] 提示された内容はきちんと調べる習慣をつける。 対象には根拠をもって説明できる知識が必要です。					
受講学生へのメッセージ	看護の一部にはなりますが、様々な視点で皆さんの役に立てる要素を取り入れていきたいと思えます。意見や質問は研究室へどうぞ。 オフィスアワーは講義日 (金曜日) の16:20~17:30とします。					

臨床・臨地実習Ⅰ		歯科衛生学科		2年後期		
		6単位		実習	270時間	
[教員]：久本 たき子・阿尾 敦子・水嶋 広美・村田 宜彦・飯岡 美幸・縄田 理佳・三角 洋美・今井 藍子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	前半は、学外における臨床・臨地実習に対するオリエンテーションやその前準備を行い、学外実習前の最終チェックまで行う。後半は、学内で学んだ知識・技術を実践の場面に適応し、理論と実践を結び付ける能力を養うことをねらいとして、各実習施設における実習を開始する。実習施設は、歯科医院、保育園、高等学校である。					
授業方法	前半は、学内において演習、実習、試験等行う。後半は、学外の各実習施設にて実習を行う。					
到達目標	1. [知識・理解] 医療人として、備えるべき専門的な基本的知識を述べる。 (◎) 2. [技能] 患者の主訴を把握し、歯科治療の流れを予測する。そして、感染予防対策に留意し指示された器具を準備する。 (○) 3. [技能] 臨床実習の学びと反省について報告し、プレゼンテーション力を身につける。 (○) 4. [関心・意欲・態度] 医療人として、日常の自己管理に心掛け主体的な実習を行い、自学自習ができる。 (○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	実習日誌・レポート	40	-	-	-	40
	臨床実習施設の評価	20	-	-	-	20
	実技試験（学内）	-	-	10	-	10
	制作物	-	-	5	-	5
	実習報告発表	-	-	5	-	5
	受講態度	-	-	-	20	20
合計	60	-	20	20	100	
成績評価と割合	実習日誌・レポート 40%、実技試験 10%、制作物 5%、臨床実習施設の評価 20%、実習報告発表 5%、受講態度 20% の合計100%評価します。欠席は減点とします。欠席した場合は補充を必ず課します。					
テキスト	実習日誌の作成には、1、2年生時に購入したテキストが必要です。					
参考書・教材	その都度指示します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	前半1週～8週 予防処置、保健指導、診療補助、各分野での総括実習を行う。 ・臨床実習日誌、レポートの記述方法の説明 ・医療事故対策講座 ・臨床実習（歯科医院）ガイダンス ・保育園実習ガイダンス ・高校実習ガイダンス ・臨床実習前の実力チェック 各分野において学外実習前の最終チェックを行い、評価結果の低い学生は再指導を行う。 [準備・課題]学習内容を復習してまとめる。実技試験に必ず合格する  後半9週～15週 ・歯科医院における実習 ・保育園における実習 ・高等学校における実習 [準備・課題]毎日の実習内容（実習日誌・課題レポート）を復習しまとめる					
時間外での学習	臨床実習に不安なく臨めるよう、知識面・技術面の総復習を行いましょ。後半の学外実習では、毎日実習日誌を書きます。テキスト等で調べて正確に記述すること。また、臨地実習において、事前にレポートを作成します。実習施設や対象者を把握し実習に臨むよう留意してください。					
受講学生へのメッセージ	学外実習は、理由を問わず欠席は認められません。欠席した分は必ず補います。各自健康管理には十分気を付けて下さい。また、実習生という立場をわきまえ、謙虚な心と態度で実習に臨んで下さい。オフィスアワーは、各担当教員の時間帯になります。					

臨床・臨地実習IV	歯科衛生学科		2年後期			
	1単位		実習	45時間		
[教員]：久本 たき子						
[関連する資格・履修制限等]：						
授業内容	総合病院の「歯科・口腔外科」における見学実習					
授業方法	総合病院の「歯科・口腔外科」において、口腔外科診療室を中心として見学実習を行う。					
到達目標	1. [知識・理解] 有病患者に対する知識を備え、口腔外科の施術方法を列挙しその施術に必要な器具、器材の用途を述べる。(◎) 2. [知識・理解] 感染予防に対する知識及び対処法や器具の消毒・滅菌方法を理解する。(◎) 3. [関心・意欲・態度] 医療人として日常の健康管理に心がけ、主体的な実習を行い自学自習ができる。(○)					
観点別評価		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計
	実習日誌	30	-	-	-	30
	実習施設評価	50	-	-	-	50
	受講態度	-	-	-	10	10
	レポート提出状況	-	-	-	10	10
	合計	80	-	-	20	100
成績評価と割合	実習日誌 30%、実習施設評価 50%、受講態度 10%、レポート提出状況10% の合計100%で評価する。					
テキスト	『最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔』医歯薬出版 『最新歯科衛生士教本 臨床検査』医歯薬出版					
参考書・教材	必要に応じ、1、2年生で購入したテキストを使用する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	1. 総合病院実習前のオリエンテーションを行う。 2. 総合病院の「歯科・口腔外科」で5日間の見学実習を行う。 3. 前のグループからの申し送り実習終了後のフィードバックを行う。					
時間外での学習	総合病院での見学実習に安全に臨めるように、知識・技術の復習を行きましょう。また、事前に課題のレポートを記載し、知識を充実させて実習に臨んでください。					
受講学生へのメッセージ	学外実習は、理由を問わず欠席は認めません。欠席した日数は、必ず補います。各自健康管理には、十分気をつけてください。また、実習生という立場をわきまえて、謙虚な心と態度で実習に臨んでください。オフィスアワーは、各担当教員の時間帯になります。					